

## 第3章

# 調査結果の活用

学校における分析等が効果的かつ円滑に行えるよう、分析方法の例を作成しました。

学校独自の分析等と併せ、調査結果から、①各学校の実態を把握し、②分析を行うことで課題等を踏まえた③仮説を設定し、その仮説に基づく取組によって④検証を行うといったサイクルの確立につなげてください。



平成29年度埼玉県学力・学習状況調査

# 調査結果の分析・活用について



本調査は、本県の児童生徒の学力や学習に関する事項等を把握することで、教育施策や指導の工夫改善を図り、児童生徒一人一人の学力を確実に伸ばす教育を推進することを目的としています。

各小・中学校におかれましては、調査結果から、①各学校の実態を把握し、②分析を行うことで課題等を踏まえた③仮説を設定し、その仮説に基づく取組によって④検証を行うといったサイクルの確立につなげていただけたらと考えています。

県教育委員会では、各小・中学校における分析等が効果的かつ円滑に行えるよう、分析方法の例を作成しました。各小・中学校におかれましても、独自の分析等と併せて御活用ください。

## 分析・活用の手順

### STEP 1

#### 自校の実態を把握し、分析の視点を決める

- ・ 自校の子供の「学力の伸び」「学力レベル」はどれくらいかな？
- ・ 学力を特に伸ばしている学年や学級、教科があるぞ。

### STEP 2

#### 自校の取組にはどんな効果があったのかを分析する。

- ・ 伸びた学年、学級、教科では、どんな工夫をしていたのだろうか？
- ・ 帳票のデータに特徴はないかな？担当者から聞き取ってみよう！  
指導法の工夫、学年・学級経営、家庭学習、生活習慣・・・

### STEP 3

#### 校内で課題と方策を共有し、学校全体で取り組む

- ・ 分析結果を、校内研修の資料にして、課題や方策を話し合おう！
- ・ 学校全体で、方策を実践し、授業を改善しよう！
- ・ コバトン問題集等を使って実践の成果を確認しよう！

## <分析をさらに進めるために>

### EXTRA

#### 分析支援プログラムを活用し、さらに課題を見つけ改善を図る

- ・ どんな取組が学力を伸ばしているのだろうか？
- ・ 相関関係から、自校の成果や課題を見つけてみよう！

# STEP 1 自校の概要を知る

今年度  
新規!

帳票28「各実施主体の調査結果票」には、各学校の結果の概要がわかりやすくまとめられています。帳票28から自校の概要を確認し、分析の視点を見つけてください。

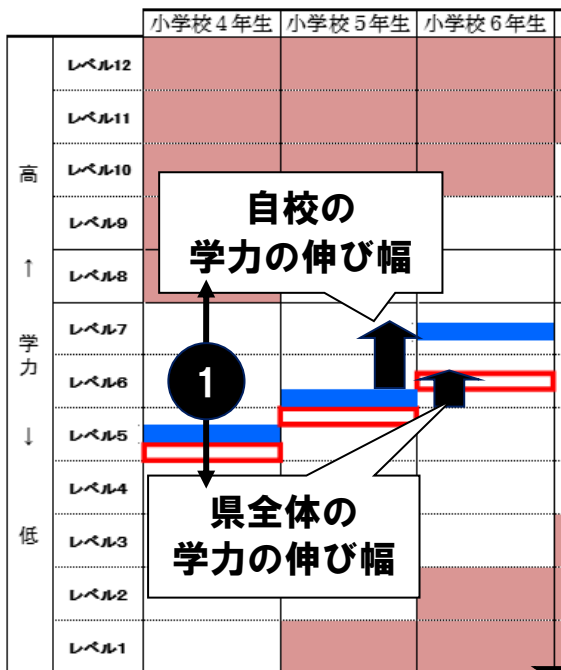
## (1) 年度間の学力の変化 【帳票28】

(各学年、各教科の「学力の伸び」、「学力レベル」の状況がわかります)

【着目する視点】

1 自校と県全体の  
学力の伸び幅の違い

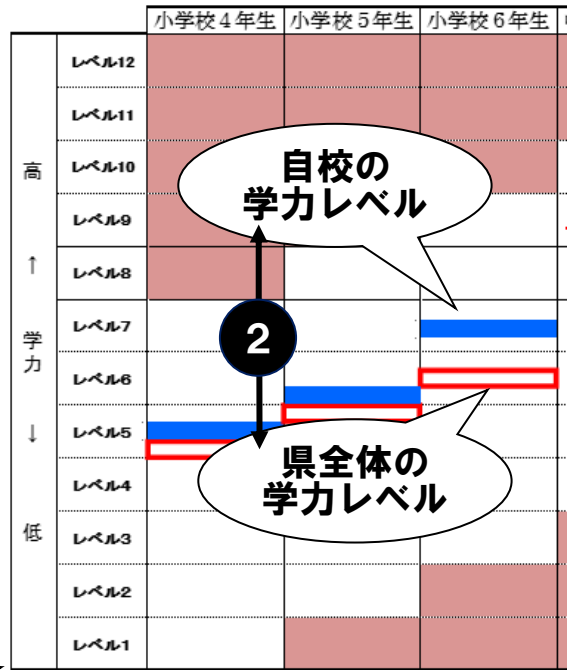
⇒伸び幅が県平均よりも大きい学年や教科を見つける。



【着目する視点】

2 自校と県全体の学力レベルの違い

⇒学力が県平均を上回っている学年や教科を見つける。  
⇒学力が他学年の同時期を上回っている学年や教科を見つける。

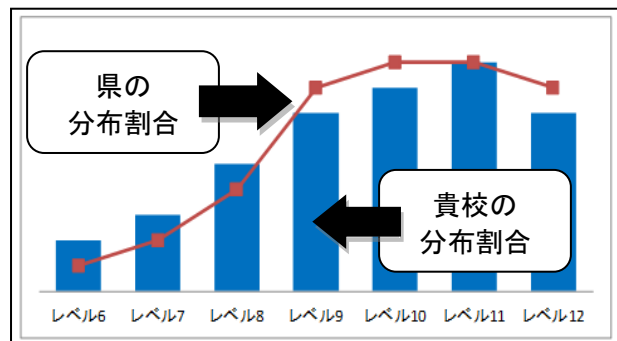


「伸び幅が大きい」「学力が高い」学年や教科は、効果的な指導や取組を行っている可能性があります。

<参考>

帳票28には、各レベルに属する児童生徒の割合が、県全体の平均と比較できるよう、**学力レベルのヒストグラム**も掲載しています。

自校にどの学力レベルの児童生徒が多いかを把握できます。「学力の伸び」と併せて見ることで、どの学力階層への取組を重点化するかなどの参考としてみてください。

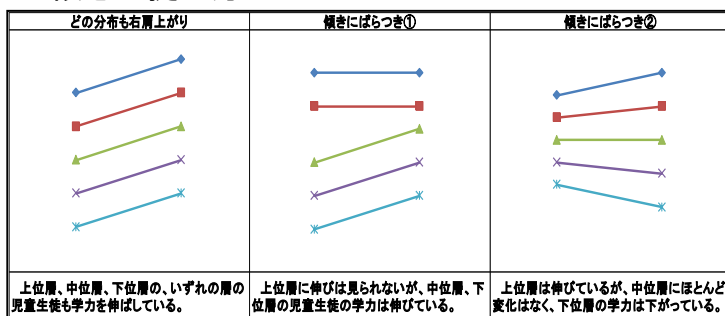


## (2) 学力階層別の伸びの状況

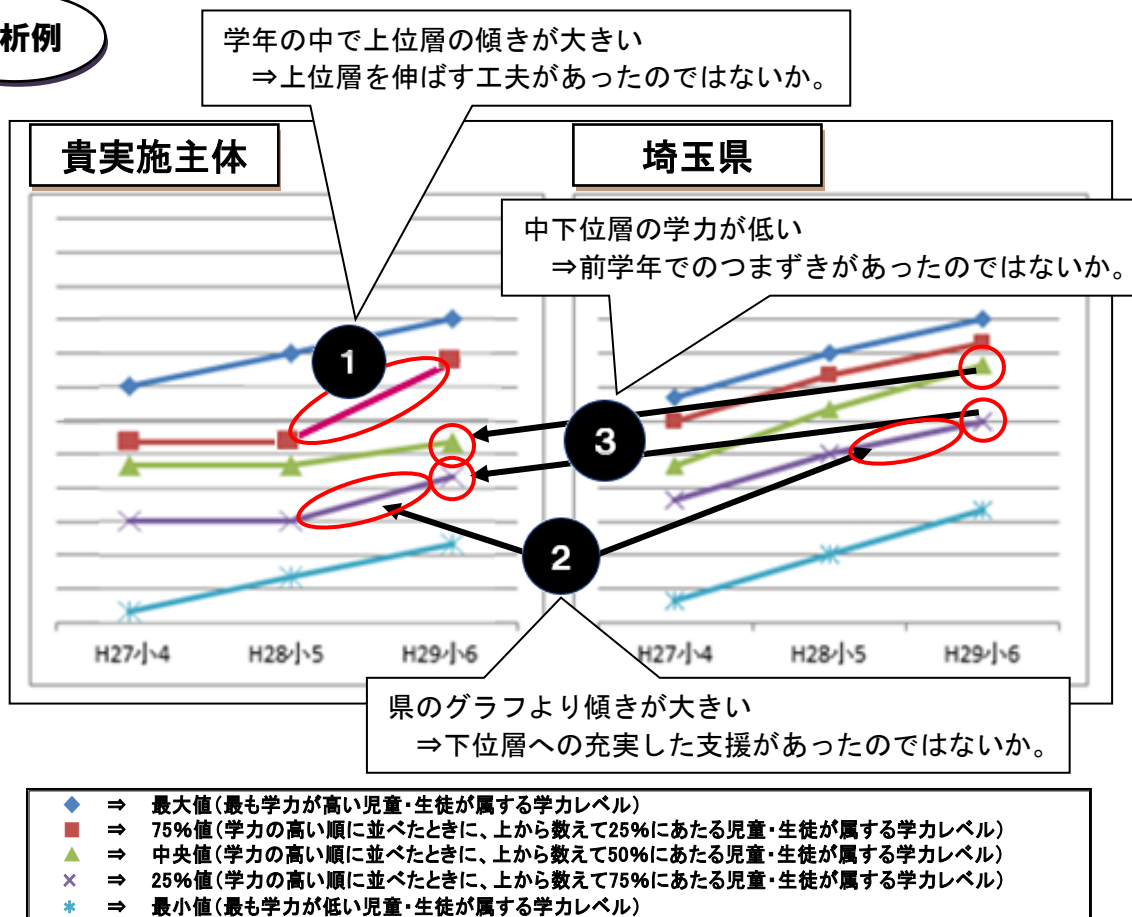
### 【着目する視点】

- 1 学力階層別の伸びの状況  
⇒各学年の中で傾きが大きい学力層を見つける。
- 2 埼玉県のグラフの傾きとの比較  
⇒県平均より傾きが大きい学年や教科を見つける。
- 3 各学力層の学力レベル  
⇒県と比較して、学力レベルが全体的に高い／低い、学力階層によってレベルが高い／低いなどの傾向を見つける。

### ＜傾きの捉え方＞



### 分析例



※ 帳票26では、各学年・各教科の「学力の伸びの状況」を一覧で見ることができます。

## STEP 2 伸びている学年・学級の特徴を分析する

学力が伸びているのは、前年度の学年や学級での指導の成果です。

STEP 1で見つけた、伸びている学年や教科、学級の理由を分析します。

### 学年・教科の分析

【方法① 担当からの聞き取り】

- 前年度、伸びている学年、教科を担当した教員から、学年全体や教科指導で取り組んだことや、共通して実践した指導方法、指導のポイント等の聞き取りを行う。

＜聞き取り例＞

- ・子供たちと接するとき、心がけていること（前向きな言葉かけ、一緒に遊ぶ等）
- ・授業の導入場面での工夫（興味を持たせる導入、めあて・見通しの持たせ方等）
- ・授業の展開場面での工夫（言語活動の充実、ペア・グループ活動の設定等）
- ・授業の終末場面での工夫（まとめの仕方、振り返りの充実等）
- ・学年で指導を徹底した取組（規律ある態度の指導、ノート指導、掲示物の工夫等）
- ・家庭学習の与え方（目安の時間の設定、チェックシートの活用、予習・復習等）

#### 聞き取りのポイント

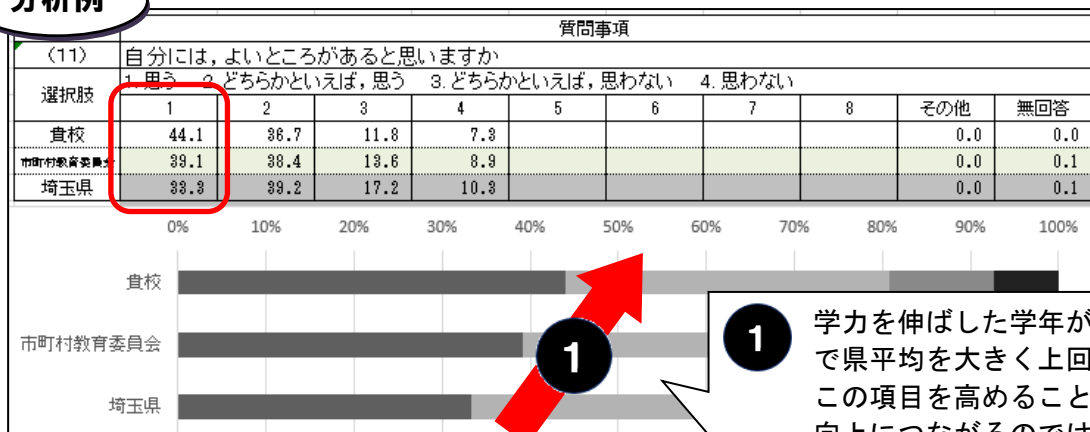
- ・上記の例を参考に、より具体的に、詳細を聞き取ってください。
- ・新たな取組や工夫した取組などにも着目して聞き取ってください。

### 学年の分析

【方法② 質問紙への回答の比較】

- 伸びが見られた学年の帳票10「児童生徒質問紙調査 集計データ」を県や市の平均と比較する。

#### 分析例



該当する学年や教科指導に見られた効果的な取組を把握し、学校全体で共有することで、指導改善を図ります。

## 学級の分析

【分析の方法③ 前年度の学級による並び替え】

**今年度  
新規!**

**1**

帳票1「教科に関する調査 採点結果」を、  
前年度の学級で並び替える。

**2**

学力の伸びの数値から、「学力の伸びの平均」や「伸びている児童生徒の割合」  
等の視点で、前年度の学級を分析する。

学年	組	出席 番号	性別	個人番号	H29レベル	2 昨年度から の学力の 伸び	H28 学校名	1 H28 学年	H28 組	H28 出席 番号
6	2	1	1	1000001	7-B	-1	〇〇市立△△小学校	5	3	2
6	2	2	2	1000002	9-A	3	〇〇市立△△小学校	5	1	9
6	2	3	1	1000003	9-A	6	〇〇市立△△小学校	5	2	13
6	2	4	1	1000004	9-C	1	〇〇市立△△小学校	5	2	14
6	2	5	2	1000005	6-B	3	〇〇市立△△小学校	5	2	15
6	2	6	1	1000006	8-C	-2	〇〇市立△△小学校	5	3	11
6	2	7	2	1000007	6-A	2	〇〇市立△△小学校	5	3	12
6	2	8	2	1000008	5-C	-1	〇〇市立△△小学校	5	3	13
6	2	9	1	1000009	8-C	3	〇〇市立△△小学校	5	1	13
6	2	10	1	1000010	7-B	-3	〇〇市立△△小学校	5	1	16
6	2	11	1	1000011	9-A	3	〇〇市立△△小学校	5	3	18
6	2	12	2	1000012	7-A	2	〇〇市立△△小学校	5	1	3

### 【学力の伸びの平均を求める方法】

<手順1>

学級全員の伸びを合計する。

<手順2>

手順1で求めた伸びの合計を、  
学級の受検者数で割る。

### 【伸びている子供の割合を求める方法】

<手順1>

学級の中で、学力の伸びが”正の数”  
の児童生徒数を数える。

<手順2>

求めた人数を、学級の受検者数で割る。

- 「学力の伸びの平均が大きい学級」「学力を伸ばした児童生徒の割合が多い学級」  
を担当した教員から、学級経営で意識していたことや取り組んだこと、授業で工夫  
したこと等の聞き取りを行う。

その学級に見られた効果的な取組を把握し、学校全体で共有すること  
で、指導改善を図ります。



## STEP 3 校内研修の充実に向けて

### <手順1> 帳票を使って、自校の状況を把握する。【STEP 1、2を参照】

- 【帳票28】を使って、学力を伸ばした学年や教科を把握します。  
【帳票1】を使って、学力を伸ばした学級を把握します。
- 学力を伸ばした学年、学級等の担当から、力を入れてきた取組等の聞き取りを行います。

### <手順2> 分析した結果を資料にまとめ、全体で協議、意見交換をする。

- 帳票のデータや聞き取りの結果を資料にまとめます。
- 校内研修や学年会などで、作成した資料をもとに、協議や意見交換を行います。

### 校内研修例

**協議例1** どのような学力状況にある子供を重点的に伸ばしていくか。

- 学力が下位で、伸び悩んでいる子供を伸ばしたい。
- 「自分の考えを書くことが苦手」で、伸び悩んでいる子供を伸ばしたい。
- 伸びている子供を、もっと伸ばしたい。

(例えば伸びが著しい子供が中位層に集中している学校など)

**協議例2** 学年(学校)として、どのようにして伸ばしていくか。

- 効果的と思われる取組を学年(学校)に広げたい。
- 学校の強みとして表れている項目を地域・保護者に広めたい。

### <手順3> 仮説を設定し、それに基づく取組、検証を行う。

- 協議、意見交換を経て仮説を設定し、それに基づいた効果的な取組を共有します。
- 取組を実践し、効果について検証を行います。

● 学年(学校)独自の**仮説を設定**し、仮説に基づく取組、検証を行う。

<仮説> (協議・意見交換により設定)

例「授業などで、自分の考えを、理由を付けて発表したり書いたりする機会を増やすことで、学力が伸びる子供たちが増える。」

<重点項目> (本校の実態及び協議・意見交換から設定)

- 例 ① 学力の階層が低い子供へのきめ細かな指導を行う。  
② 授業規律を大切にする。

※ 上記①②は全教員で重点化して取り組む。

### <手順4> 分析支援プログラムを使って、さらに分析を深める。【次ページ以降を参照】

- 「学力の伸び」、「学力の階層」と質問紙への回答の相関関係を調べます。

### 校内研修例

**協議例3** 学力の伸びと質問紙への回答との関連からどんなことがわかるか。

- 相関関係がある(ない)理由を話し合い、授業改善のヒントを探したい。
- 伸びていない子供への支援の仕方を改善する方法を話し合いたい。
- 他の学年や他の教科の状況と比較し、当該学年の課題を解決したい。

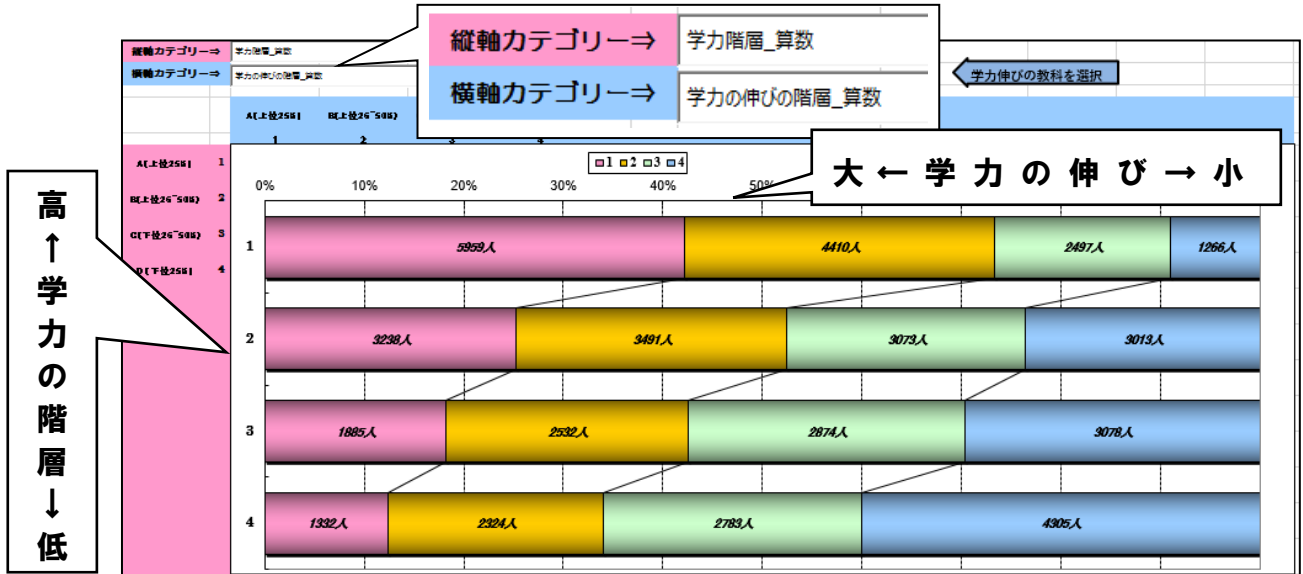
## EXTRA 分析支援プログラムを活用する

分析支援プログラムを使うと、「学力の伸び」や「学力の階層」と質問紙調査との相関関係を簡単に見ることができます。

### 活用例① 「学力の階層」と「学力の伸び」の相関を調べる

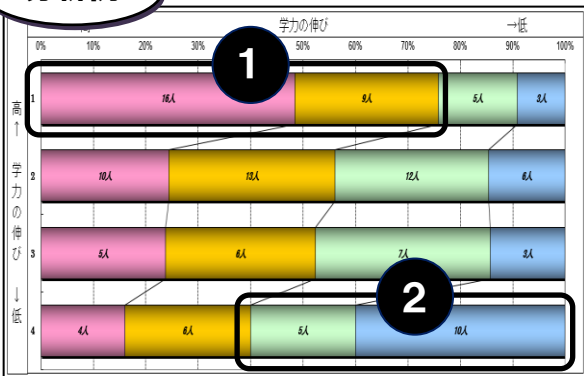
※ 分析支援プログラム「①クロス集計」を利用します。

手順1 「学力の伸びの階層」と「学力の階層」をクロス集計し、それらの分布をみる



手順2 自校の子供たちの学力を、「学力の伸び」と「学力の階層」の視点から分析する

#### 分析例



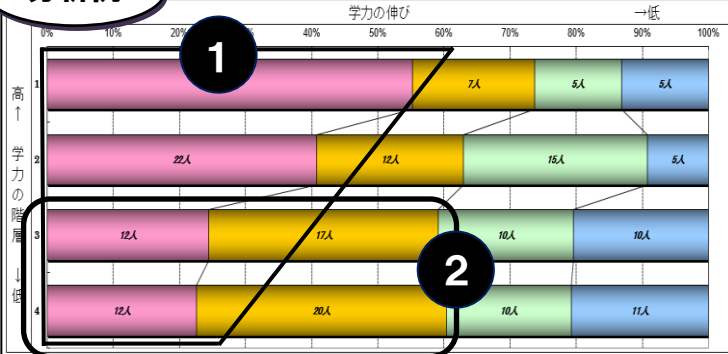
1 学力が高い階層は学力が伸びている。

2 学力が低い階層は学力が伸び悩んでいる。

⇒理解の進んでいる子供の発言を中心に授業が進んでいないか。

⇒学力階層の低い児童生徒が自分の考えを持てるような支援が必要ではないか。

#### 分析例



1 学力の高い階層の方が、学力の伸びが大きい。

2 学力が低い階層の伸びをさらに高める必要がある。

⇒各階層に属する児童生徒により構成されるグループ等で、互いの考えを交流する場面があるとよいのではないか。



## 活用例② 「質問紙調査」と「学力の伸び」を視点とした分析

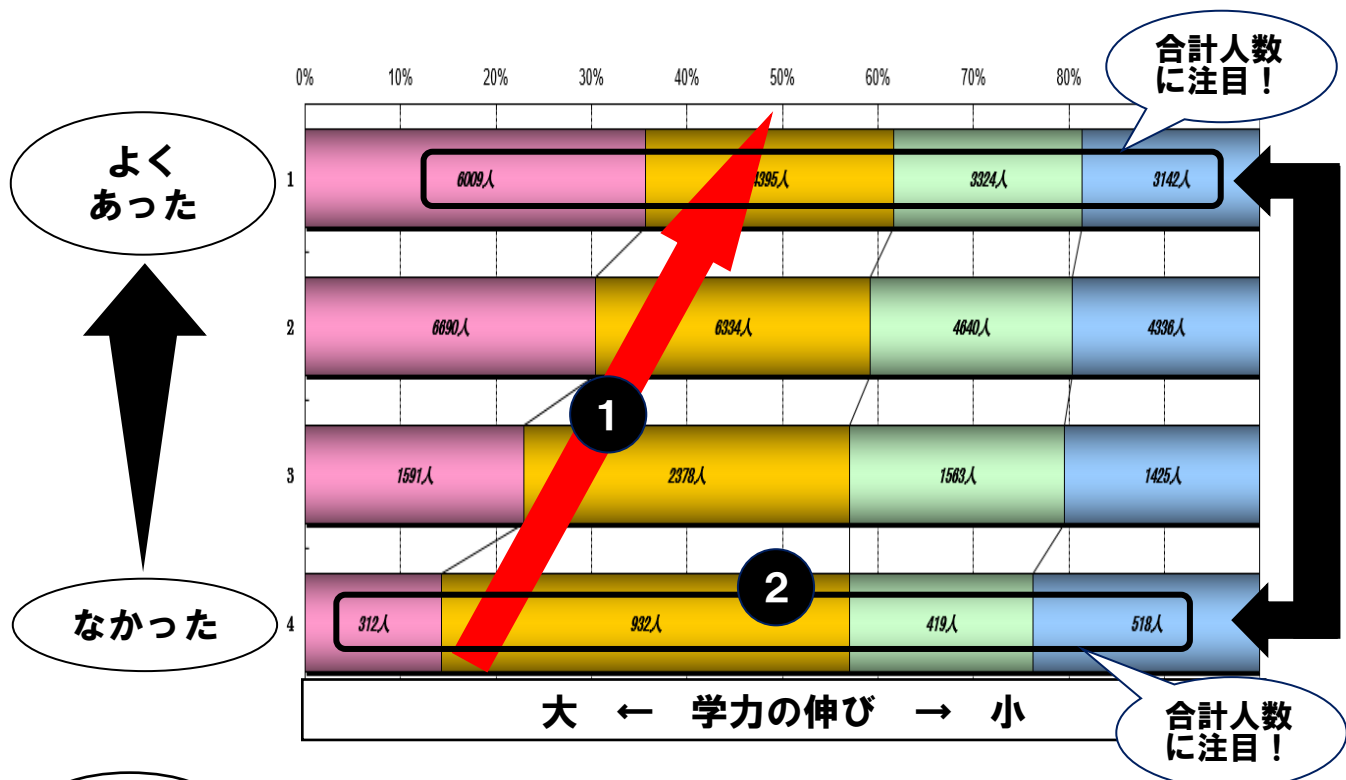
※ 分析支援プログラム「①クロス集計」を利用します。

手順1 分析の視点を設定し、該当する質問紙の項目を選ぶ。

**分析視点例1** どのような授業が、児童生徒の学力を伸ばしているのか？

手順2 「質問紙項目」と「学力の伸び」の視点から分析する。

**質問紙項目例** 自分の考えを理由を付けて発表したり書いたりできたこと



### 分析例

- 理由を発表したり、書いたりする機会が「よくあった」と感じている児童生徒の方が、学力の伸びが大きい傾向がある。  
⇒教科を問わず、解答するときは答えだけではなく、その理由を聞き返すようにしたらよいのではないか。
- 理由を発表したり、書いたりする機会が「よくあった」と答えている人数のほうが、なかったと答えている人数より多い。  
⇒発表のときに答えだけでなく、その理由も考えている児童生徒が多い。何か工夫があるのではないか。  
⇒なかったと回答する児童生徒を減らすために、どのような取組を行ったらよいだろうか。

手順1 分析の視点を設定し、該当する質問紙の項目を選ぶ。

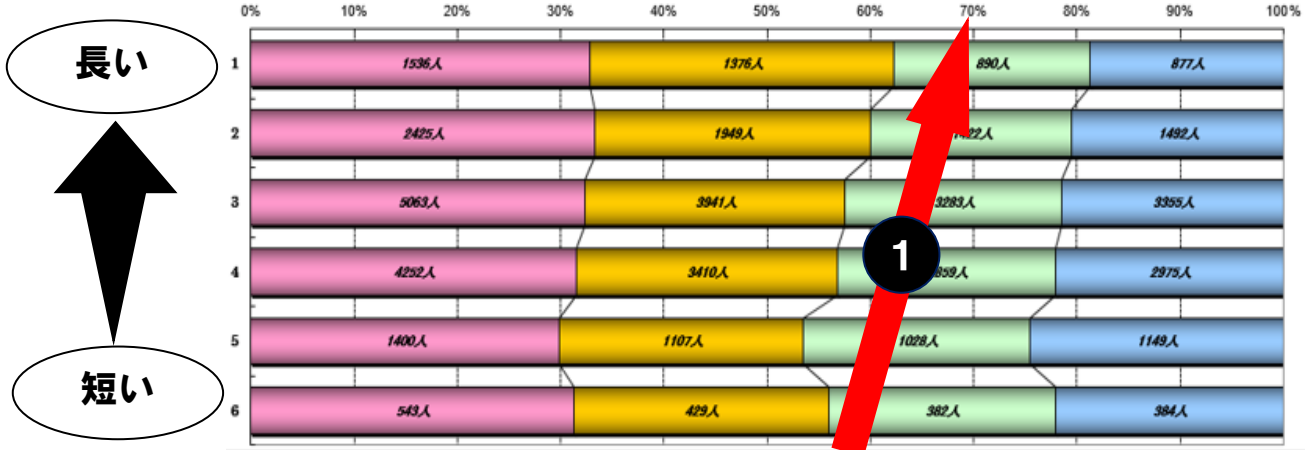
**分析視点例2**

家庭での学習の状況を知りたい。

手順2 「質問紙項目」と「学力の伸び」の視点から分析する。

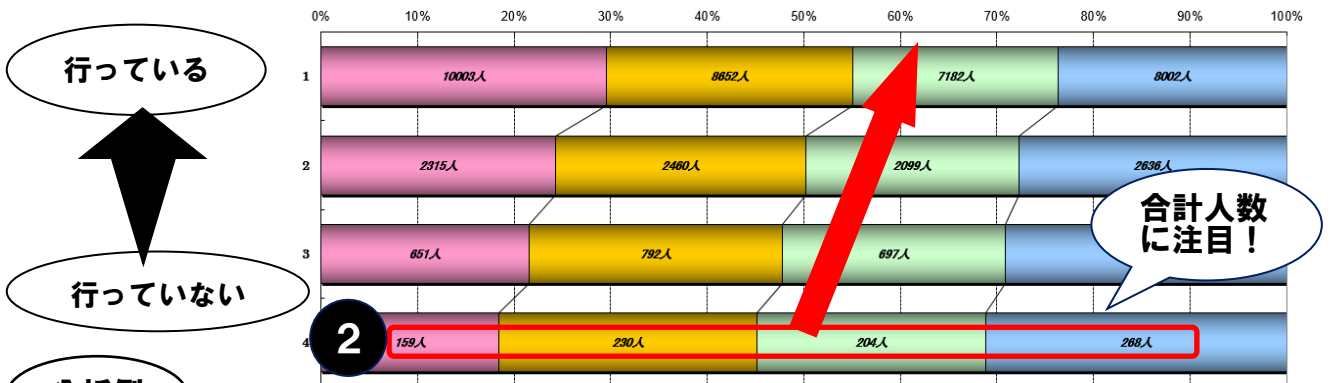
**質問紙項目例**

学校の授業以外に、月～金、1日どれくらいの勉強をしますか。



**質問紙項目例**

学校の宿題をしていますか。



**分析例**

- 授業以外に勉強に取り組む時間が長い方が、学力の伸びも大きい。  
⇒ 家庭学習の時間を、しっかり確保するために、学年ごとに学習時間の目安を示すとよいのではないか。
- 宿題を行っていないと回答した児童生徒も一定数いる。宿題への取組状況と学力の伸びには相関関係が見られる。  
⇒ 宿題を行っていない児童生徒へのどのような支援を行うか。

- 各学校へ送付した帳票やデータは、それ自体の内容から分析を行うことはもちろんですが、併せ見たり、組み合わせたりすることで、多様な分析を行うことができます。
- 分析例を参考に、多面的な分析を行うことで、効果的な取組や課題の把握につながります。



教義指第640号（9月27日付け）を再掲したものです。

## 「平成29年度埼玉県学力・学習状況調査のデータ活用事業」の分析結果 に基づく追加帳票について

### 1 はじめに

県では、平成27年度から児童生徒一人一人の学力の経年変化を把握できる「埼玉県学力・学習状況調査」を実施してまいりました。

さらに、平成28年度から、「埼玉県学力・学習状況調査」のデータをより詳細に分析するため、「埼玉県学力・学習状況調査のデータ分析事業」を実施しています。本事業の分析については、学校法人慶應義塾 慶應義塾大学SFC研究所に委託を行い、統計学の専門性を生かした、学力の経年変化と子供達の質問紙調査結果の相関分析や教科教育の視点からの学校現場の現地調査を行いました。

その分析結果から、「主体的・対話的で深い学び（特に問題解決的学び）」が、学習方略・非認知能力の向上を通じて学力を向上させている可能性が示唆されました。**【別添1参照】**

そこで、県としては、今後の児童生徒の学力向上の方策の一つとして、「主体的・対話的で深い学び」のより一層の実施に加え、児童生徒の学習方略や非認知能力の向上に着目した取組を推進していきたいと考えております。

この度、そのような趣旨で、各学校や市町村教育委員会等で活用していただけるよう、児童生徒の「学力の伸び」と「主体的・対話的で深い学び」の実施状況、「学習方略」や「非認知能力」の変化に特化した埼玉県学力・学習状況調査結果の追加帳票を作成いたしました。本帳票は「埼玉県学力・学習状況調査のデータ分析事業」から得られた新たな知見に基づく結果帳票となります。

各学校や市町村教育委員会等におかれましては、本帳票の結果を基に「主体的・対話的で深い学び」の実施等についての状況を把握し、今後の指導改善等に活かしていただければと考えております。

#### 【本帳票で分かること（例）】

- (ア) 今年度担当している児童生徒の「学習方略」「非認知能力」の状況把握
- (イ) 昨年度の学級における「主体的・対話的で深い学び」の実施の状況把握
- (ウ) 昨年度の児童生徒の「学習方略」「非認知能力」の把握
- (エ) 昨年度、「学習方略」「非認知能力」をよく伸ばした学級の把握
- (オ) 昨年度、学年で共通して行った取組の効果の把握

## 2 追加帳票の見方について

(1) 帳票イメージ (掲載の都合上、左右に分割して掲載しています。)

### 【帳票左側】

40 学校用		平成29年度埼玉県学力・学習状況調査(小学校6年生)														学力分析データ(学力レベル・伸び・学習方略・非認知)児童生徒別																						
年度		市町村教育委員会コード		市町村教育委員会名		埼玉県学校コード		学校名		H28在籍情報				H29在籍情報				学校平均		市町村平均		県平均		国語		算数・数学												
										個人番号		学年		組		出席番号		性別		個人番号		学年		組		出席番号		性別		8-C		7-B		7-A		6-A		
H29	00	00	00	00	00	00	00	00	立00学校	00000000	6	1	16	1	00000000	5	1	16	1	00000000	7-A	2	7-C	6-A	1	6-B	7-B	1	7-C	6-A	1	6-B	7-A	1	6-B	7-A	1	6-B
H29	00	00	00	00	00	00	00	00	立00学校	00000000	6	1	19	2	00000000	5	1	19	2	00000000	7-A	2	7-C	6-A	1	6-B	7-B	1	7-C	6-A	1	6-B	7-A	1	6-B	7-A	1	6-B
H29	00	00	00	00	00	00	00	00	立00学校	00000000	6	1	31	2	00000000	5	1	32	2	00000000	7-A	2	7-C	6-A	1	6-B	7-B	1	7-C	6-A	1	6-B	7-A	1	6-B	7-A	1	6-B
H29	00	00	00	00	00	00	00	00	立00学校	00000000	6	1	7	1	00000000	5	1	10	1	00000000	7-A	2	7-C	6-A	1	6-B	7-B	1	7-C	6-A	1	6-B	7-A	1	6-B	7-A	1	6-B
H29	00	00	00	00	00	00	00	00	立00学校	00000000	6	1	14	1	00000000	5	1	15	1	00000000	7-A	2	7-C	6-A	1	6-B	7-B	1	7-C	6-A	1	6-B	7-A	1	6-B	7-A	1	6-B
H29	00	00	00	00	00	00	00	00	立00学校	00000000	6	1	18	1	00000000	5	1	17	3	00000000	7-A	2	7-C	6-A	1	6-B	7-B	1	7-C	6-A	1	6-B	7-A	1	6-B	7-A	1	6-B
H29	00	00	00	00	00	00	00	00	立00学校	00000000	6	1	2	1	00000000	5	1	2	1	00000000	7-A	2	7-C	6-A	1	6-B	7-B	1	7-C	6-A	1	6-B	7-A	1	6-B	7-A	1	6-B
H29	00	00	00	00	00	00	00	00	立00学校	00000000	6	1	20	2	00000000	5	1	20	2	00000000	7-A	2	7-C	6-A	1	6-B	7-B	1	7-C	6-A	1	6-B	7-A	1	6-B	7-A	1	6-B
H29	00	00	00	00	00	00	00	00	立00学校	00000000	6	1	33	2	00000000	5	1	34	2	00000000	7-A	2	7-C	6-A	1	6-B	7-B	1	7-C	6-A	1	6-B	7-A	1	6-B	7-A	1	6-B
H29	00	00	00	00	00	00	00	00	立00学校	00000000	6	2	14	1	00000000	5	1	14	1	00000000	7-A	2	7-C	6-A	1	6-B	7-B	1	7-C	6-A	1	6-B	7-A	1	6-B	7-A	1	6-B

- ・ 平成29年度と平成28年度の児童生徒の在籍情報及び学力レベル等が記載されています。
- ・ 調査結果を平成28年度の学級ベースに並べ替えができるように、平成28年度の在籍情報も記載されています。
- ・ 学力レベルは、7月に各学校等へ送付している個人結果票や「帳票01」に記載されている学力レベルと同じものです。

### 【帳票右側】

H28→H29(変化量)										H29の結果										H28の結果									
アクティブ・ラーニングの実施		学習方略				非認知能力				アクティブ・ラーニングの実施		学習方略				非認知能力				アクティブ・ラーニングの実施		学習方略				非認知能力			
数値的方策	プロセス	作業方略	学習方略	非認知能力	数値的方策	プロセス	作業方略	学習方略	非認知能力	数値的方策	プロセス	作業方略	学習方略	非認知能力	数値的方策	プロセス	作業方略	学習方略	非認知能力	数値的方策	プロセス	作業方略	学習方略	非認知能力	数値的方策	プロセス	作業方略	学習方略	非認知能力
0.2	0.0	0.0	-0.1	-0.2	-0.1	0.1	-	0.2	-	2.1	2.5	2.4	2.4	3.1	2.1	2.0	-	2.8	-	1.9	2.6	2.4	2.6	3.3	2.2	2.0	-	2.6	-
0.0	0.0	0.0	-0.1	0.0	0.0	0.0	-	0.2	-	2.0	2.6	2.5	2.6	3.1	2.2	2.1	-	2.8	-	2.0	2.6	2.5	2.6	3.1	2.2	2.0	-	2.5	-
0.0	0.0	0.0	-0.1	0.0	0.0	0.0	-	0.2	-	2.0	2.5	2.4	2.5	3.0	2.1	2.0	-	2.7	-	2.0	2.5	2.4	2.6	3.0	2.1	2.0	-	2.5	-
0.3	-	-	-	-	0.3	-	-	0.5	-	1.6	1.8	2.0	1.5	2.8	1.3	2.0	-	2.6	-	1.4	-	-	-	-	1.0	-	-	2.1	-
-0.1	0.3	-0.3	-1.0	0.0	-0.3	0.0	-	0.1	-	2.6	4.5	2.5	4.0	5.0	3.5	2.5	-	3.0	-	2.8	4.3	2.8	5.0	5.0	3.8	2.5	-	2.9	-
1.3	-0.5	0.5	0.5	-0.3	-0.8	1.0	-	1.4	-	3.4	3.5	4.3	4.8	4.0	2.5	3.3	-	3.1	-	2.1	4.0	3.8	4.3	4.3	3.3	2.3	-	1.8	-
0.1	-0.5	-0.3	0.3	-0.5	0.0	0.0	-	0.1	-	1.8	1.3	1.5	1.5	3.5	1.0	1.0	-	1.5	-	1.6	1.8	1.8	1.3	4.0	1.0	1.0	-	1.4	-
-0.8	0.0	0.0	-0.8	-1.3	0.0	0.0	-	0.6	-	1.9	2.3	1.8	1.3	1.8	2.0	1.5	-	2.9	-	2.6	2.3	1.8	2.0	3.0	2.0	1.5	-	2.3	-
0.5	1.0	0.5	0.8	0.3	0.8	0.0	-	1.1	-	1.9	2.8	2.5	2.0	2.8	2.0	1.5	-	2.9	-	1.4	1.8	2.0	1.3	2.5	1.3	1.5	-	1.8	-
1.0	0.7	0.3	1.0	0.3	0.0	-0.3	-	0.4	-	2.4	2.7	2.6	3.0	2.3	2.5	2.3	-	2.6	-	1.4	2.0	2.5	2.0	2.0	2.5	2.5	-	2.3	-
0.8	1.3	2.3	0.0	0.5	0.3	1.0	-	-0.1	-	2.5	3.3	3.5	1.8	3.0	2.3	2.3	-	2.5	-	1.8	2.0	1.3	1.8	2.5	2.0	1.3	-	2.6	-
-0.1	-0.8	-1.5	0.8	0.0	-0.3	0.8	-	0.8	-	1.6	2.3	1.8	2.8	3.5	2.0	1.8	-	2.1	-	1.8	3.0	3.3	2.0	3.5	2.3	1.0	-	1.5	-
-0.3	-0.3	-0.5	0.0	-1.5	-0.8	0.0	-	0.3	-	2.0	1.0	1.8	1.5	1.5	1.8	1.5	-	2.6	-	2.3	1.3	2.3	1.5	3.0	2.5	1.5	-	2.4	-

H28→H29 の変化量

H29 の結果

H28 の結果

- ・ 平成29年度と平成28年度における「アクティブ・ラーニングの実施」「学習方略」「非認知能力」の値と、それらの1年間の変化量が記載されています。
- ※ 本帳票における「アクティブ・ラーニングの実施」は「主体的・対話的で深い学び」の当該学級における実施状況について、児童生徒がどう受け止めていたかという値です。
- ・ 本帳票の「アクティブ・ラーニングの実施」「学習方略」「非認知能力」の数値の範囲は、1.0～5.0となっており、数値が低いほど、よい値となっています。

(例) 児童生徒A プランニング方略=2.5 ⇒ Aの児童(生徒)の方がよい結果となる。  
 児童生徒B プランニング方略=2.8

- ・ H28→H29の変化量については、値がー(マイナス)の方がよい値となっています。
- ※ 各種項目についての詳細な説明は、「【別添2】本帳票に使用されている項目についての説明」を参照してください。

### 3 追加帳票の活用について

(1) 平成29年度(今年度)の学級ベースの状況把握(送付された帳票をそのまま見る。)

#### (ア) 今年度担当している子供たちの学習方略・非認知能力の状況を把握

⇒ 目の前の児童生徒一人一人の状況を把握し、今後の児童生徒への指導に生かす。

#### 【手順】

① 帳票のエクセル・ファイルを開き、左下にあるシートタブから、結果を見たい学級のタブを選択します。

(シートタブは、「全体」「1組」「2組」・・・の順に並んでいます。)

2	H29	〇〇	〇〇市(町・村)教育委員会
3	H29	〇〇	〇〇市(町・村)教育委員会
4	H29	〇〇	〇〇市(町・村)教育委員会
5	H29	〇〇	〇〇市(町・村)教育委員会
< 全体 <b>1組</b> 2組 3組 4組			

※ 下の図は、(例)として、小学校6年生の帳票で「1組」を選択しています。

※ 必要に応じて、出席番号順に並べ替えたり、部分的に非表示にしたりしてください。

(ここでは、平成29年度の1組の出席番号で並べ替え、平成28年度の結果を非表示にしています。)

H29在籍情報					H29結果									
					アクティブ・ラーニングの実施	学習方略						非認知能力		
						柔軟的方略	プランニング方略	作業方略	人的リソース方略	認知的方略	努力調整方略	自制心	自己効力感	勤勉性
個人番号	学年	組	出席番号	性別	2.1	2.5	2.4	2.4	3.1	2.1	2.0	-	2.8	-
					2.0	2.6	2.5	2.6	3.1	2.2	2.1	-	2.8	-
					2.0	2.5	2.4	2.5	3.0	2.1	2.0	-	2.7	-
〇〇〇〇〇〇	6	1	1	1	2.0	2.0	1.8	3.0	3.5	1.8	1.8	-	3.4	-
〇〇〇〇〇〇	6	1	2	1	2.0	2.3	2.5	2.5	2.3	2.3	2.0	-	2.6	-
〇〇〇〇〇〇	6	1	3	1	1.3	3.3	2.0	3.0	2.5	1.0	2.5	-	2.3	-
〇〇〇〇〇〇	6	1	4	1	1.6	1.8	2.0	1.5	2.8	1.3	2.0	-	2.6	イ
〇〇〇〇〇〇	6	1	5	1	1.9	1.3	2.0	2.8	3.0	1.3	1.8	-	1.8	-
〇〇〇〇〇〇	6	1	6	1	1.6	2.3	1.8	2.8	3.5	2.0	1.8	-	2.1	-
〇〇〇〇〇〇	6	1	7	1	2.1	2.3	1.0	1.0	2.5	1.3	1.0	-	1.8	-
〇〇〇〇〇〇	6	1	8	1	2.0	3.0	2.0	2.8	3.0	2.5	2.0	-	2.9	-
〇〇〇〇〇〇	6	1	9	1	2.3	2.5	3.8	2.5	2.8	2.0	1.5	-	2.9	-
〇〇〇〇〇〇	6	1	10	1	1.5	1.0	2.0	3.0	2.8	1.3	1.8	-	2.1	-

② 選択した学級の「学習方略」「非認知能力」について、児童生徒一人一人の状況を把握します。

(例1) 出席番号9番の児童は、㊦の数値から、プランニング方略に課題がある可能性がある。

(例2) 出席番号1番の児童は、㊥の数値から、自己効力感が低い可能性がある。

⇒ 上記の例などを踏まえ、今後の一人一人の児童生徒への指導に生かす。

#### 【数値を見る際の留意点】【重要】

※ 数値の範囲は、1.0~5.0となっており、数値が低いほど、よい値となっています。

※ 「アクティブ・ラーニングの実施」については、平成28年度(昨年度)の学級の取組の成果となりますので、読み取る際に注意が必要です。

※ 「人的リソース方略」(友人を利用して学習を進める活動)は、学力と負の相関(人的リソース方略を利用する児童生徒ほど、学力が低くなる傾向)があることが報告されています。

(2) 平成28年度(昨年度)の学級ベースの状況把握(送付された帳票を加工して見る。)

- ・ 県学力・学習状況調査の結果は、昨年度の学級等における取組の成果であることから、昨年度の取組が児童生徒に効果的であったかを把握し、教師の指導改善に活かす。

【手順】(平成28年度の学級ベースに並べ替えを行います。)

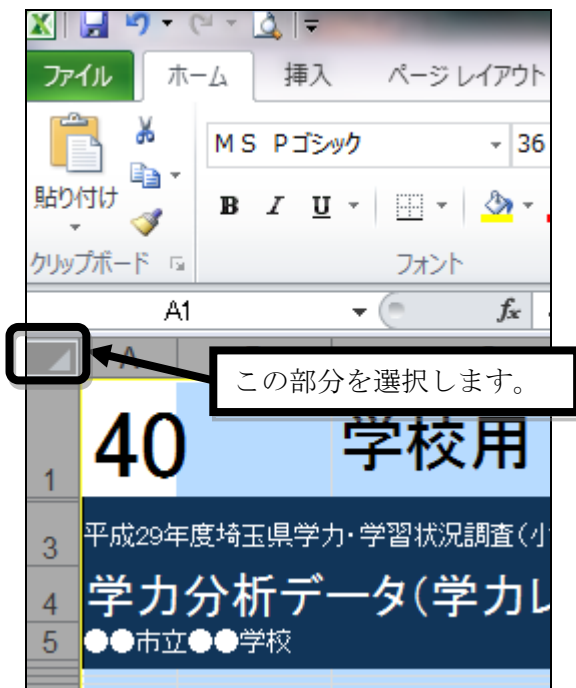
① 帳票のエクセル・ファイルを開き、左下にあるシートタブから、「全体」のタブを選択します。

2	H29	〇〇	〇〇市(町・村)教育委員会	
3	H29	〇〇	〇〇市(町・村)教育委員会	
4	H29	〇〇	〇〇市(町・村)教育委員会	
5	H29	〇〇	〇〇市(町・村)教育委員会	

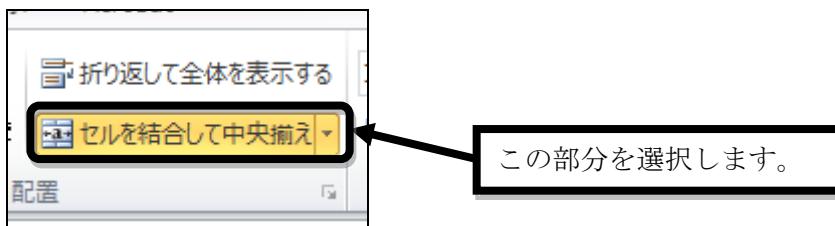
全体 1組 2組 3組 4組

② エクセル・シートの左上の部分を選択し、セルを「全選択」の状態にします。

(下の図は、エクセル2010でファイルを開いた場合のイメージです。)



③ エクセル・シートの上部にある「セルを結合して中央揃え」を選択し、セルの結合を解除します。





④ 平成28年度の在籍学級(組)ベースで並べ替えを行います。

※ エクセルの「ソート」機能や「フィルタ」機能を利用して、並べ替えてください。

(下の図は、「フィルタ」機能を利用した場合のイメージです。)

「H28」であることを確認してください。  
 ※ ここでは例として、H29の小学校6年生の帳票を、H28の5年生の学級に並べ替えています。

「組」の部分を、昇順で並べ替えます。

個人番号	学年	組		
○○○○○○○	5	2	1	1
○○○○○○○	5	2	15	1
○○○○○○○	5	1	16	1
○○○○○○○	5	1	17	2
○○○○○○○	5	3	3	2
○○○○○○○	5	1	32	2
○○○○○○○	5	4	30	2
○○○○○○○	5	4	34	2

⇒ 平成28年度の在籍学級(組)ベースで並べ替えが完了します。

※ 画面上は表示されていませんが、1組、2組の順に、縦に並んでいます。

H28在籍情報					国語		算数・数学		H28→H29(変化量)										
個人番号	学年	組	出席番号	性別	H29レベル	H28レベル	H29レベル	H28レベル	アクティブ・ラーニング	柔軟的方略	プロセス	作業方略	人際関係	認知的方略	努力調整方略	自制心	自己効力感	動機	
○○○○○○○	5	1	16	1	8-B	1	8-C	6-A	-3	7-A	1.3	-0.5	0.5	-0.3	-0.8	1.0	-	0.2	
○○○○○○○	5	1	19	2	9-A	3	8-A	9-A	3	8-A	0.1	-0.5	-0.3	0.3	-0.5	0.0	-	0.1	
○○○○○○○	5	1	32	2	8-C	2	7-B	6-C	2	5-B	0.5	1.0	0.5	0.8	0.3	0.0	-	1.1	
○○○○○○○	5	1	10	1	8-B	2	7-A	8-A	7	6-B	-0.1	-0.5	-1.0	-1.3	-0.8	-1.3	-0.5	-	-0.5
○○○○○○○	5	1	15	1	9-A	3	8-A	9-A	3	8-A	-0.4	-1.5	-1.3	-1.5	0.0	-0.8	1.0	-	-0.6
○○○○○○○	5	1	17	3	6-C	6	4-C	4-A	4	3-B	-0.8	-1.5	-1.0	-0.5	-1.3	-0.8	0.0	-	-0.8
○○○○○○○	5	1	2	1	5-C	3	4-C	5-A	2	5-C	0.0	0.0	0.5	0.5	0.3	0.0	-1.0	-	0.4
○○○○○○○	5	1	20	2	8-A	5	7-C	8-C	6	6-C	0.1	-1.0	0.0	-0.3	-0.3	-1.0	0.0	-	0.0
○○○○○○○	5	1	34	2	7-A	9	4-A	6-C	2	5-B	0.1	0.0	-0.5	0.0	-1.0	0.0	0.0	-	0.3
○○○○○○○	5	1	14	1	9-C	3	8-C	9-A	3	8-A	0.0	0.8	1.3	-0.3	1.8	0.3	0.5	-	0.0
○○○○○○○	5	1	11	1	9-A	3	8-A	9-A	3	8-A	0.0	-0.3	0.8	0.3	0.0	-0.3	0.8	-	1.0
○○○○○○○	5	1	24	2	9-C	1	8-A	9-A	3	8-A	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	-0.3	1.0	-	0.1
○○○○○○○	5	1	26	2	4-C	-5	5-A	4-C	-6	6-C	-0.1	0.5	-1.8	2.0	-0.5	0.0	0.8	-	1.0
○○○○○○○	5	1	29	2	8-C	1	7-A	6-A	4	5-B	-0.3	-0.5	-0.8	-1.0	-1.0	-1.5	-0.3	-	-0.3
○○○○○○○	5	1	4	1	7-B	2	6-A	7-C	4	5-A	0.8	3.8	2.5	1.3	0.0	0.8	1.8	-	2.8
○○○○○○○	5	1	21	2	8-C	4	6-A	6-C	8	3-B	-0.3	-0.3	-0.8	-0.7	-1.8	-0.8	-	-0.3	

⑤ エクセルの average 関数などを利用して、数値を整理します。(下の表は例です。)

	アクティブ・ラーニングの実施	学習方略 柔軟的方略	プランニング方略	作業方略	人的リソース方略	認知的方略	努力調整方略	非認知能力		
								自制心	自己効力感	勤勉性
1組	0.0	0.1	-0.3	-0.1	-0.2	-0.3	-0.2	-	0.2	-
2組	-0.1	-0.2	-0.3	-0.5	-0.3	-0.2	-0.3	-	0.1	-
3組	0.3	0.0	0.2	0.0	-0.2	0.1	-0.1	-	0.5	-
4組	0.2	0.1	0.2	0.1	-0.2	0.0	-0.2	-	0.1	-
学年全体	0.1	0.0	0.0	-0.1	-0.2	-0.1	-0.2	-	0.2	-

- ・ 昨年度1年間の取組の成果を見ることから、「H28→H29 (変化量)」の値を使用しています。
- ・ よい結果が出ている部分のセルに色を付けるなどして、結果を把握しやすくしています。

※ 「自制心」は小学校5年生と中学校2年生、「勤勉性」は中学1年生にのみ質問している項目のため、数値が記載されていません。

【参考】 average を利用した平均値の出し方

- ① 必要に応じて、入力する枠を用意します。(平均値算出後でも問題ありません。)
- ② 平均値を表示したいセルを選択します。(同シート内でも、別シートでも問題ありません。)
- ③ エクセル上部の数式タブにある、「関数の挿入」を選択する。
- ④ 表示されたウインドウ内の「AVERAGE」を選択し、ウインドウ下部にある「OK」を押す。

③ 数式タブにある「関数の挿入」を選択

② 平均値を入力したいセルを選択

④ 「AVERAGE」を選択し、「OK」を押す

① 必要に応じて、入力する枠を準備

⑤ 次のようなウィンドウが出てきます。エクセルのポインタで、平均値を出したい対象の値を選択し、「OK」を押してください。

ここでは、平成28年度5年1組の「アクティブ・ラーニングの実施」の「H28→H29（変化量）」の平均を算出する場合を示しています。

H28在籍情報					H28→H29(変化量)								H29結果				
個人番号	学年	組	出席番号	性別	柔軟的方略	学習方略	作業方略	人間的スキル	認知的方略	発問評価方略	自制心	自己効力感	勤勉性	柔軟的方略	学習方略	作業方略	
00000000	5	1	16	1	0.2	0.0	0.0	-0.1	-0.2	-0.1	0.1	-	0.2	-	2.1	2.5	2.4
00000000	5	1	19	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
00000000	5	1	32	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
00000000	5	1	10	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
00000000	5	1	15	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
00000000	5	1	17	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
00000000	5	1	2	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
00000000	5	1	20	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
00000000	5	1	34	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
00000000	5	1	14	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
00000000	5	1	11	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
00000000	5	1	24	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
00000000	5	1	26	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
00000000	5	1	29	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
00000000	5	1	4	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
00000000	5	2	1	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
00000000	5	2	15	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
00000000	5	2	12	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

1組の平均なので、点線囲み部分を参照しながら、実践部分を選択します。

⑥ 平均値が表示されます。

平成28年度〇〇学校「	
	アクティブ・ラーニングの実施
1組	0.1
2組	

⑦ 2組→4組の順に、②～⑥の手順を繰り返してください。全体平均を出す場合は、1組から4組の全ての結果を選択してください。

平成28年度〇〇学校「ALの実施」		
	アクティブ・ラーニングの実施	学習方略
	柔軟的方略	プランニング
1組	0.1	
2組	0.1	
3組	0.3	
4組	0.1	
学年全体	0.1	

⑧ 1項目分完成したら、上の図のように範囲選択し、右下の部分を押しながら右へ移動（ドラッグ）すると、計算式がコピーされ、他の項目も表示できます。

⑨ 次のように表示されます。

※ 最初に枠を作成している場合は、作成した枠の項目と元データの入っている項目が一致していることを確認してください。

平成28年度〇〇学校「主体的・対話的で深い学び」の実施状況に関する分析資料

	アクティブ・ラーニングの実施	学習方略						非認知能力		
		柔軟的方略	プランニング方略	作業方略	人的リソース方略	認知的方略	努力調整方略	自制心	自己効力感	勤勉性
①組	0.1	0.0	0.0	0.1	-0.2	-0.3	0.3	#DIV/0!	0.4	#DIV/0!
2組	0.1	-0.2	-0.1	-0.6	-0.1	-0.3	-0.2	#DIV/0!	-0.1	#DIV/0!
3組	0.3	0.1	0.2	0.2	-0.1	0.2	0.3	#DIV/0!	0.5	#DIV/0!
4組	0.1	-0.2	0.0	-0.1	-0.1	0.0	0.2	#DIV/0!	-0.1	#DIV/0!
学年全体	0.1	-0.1	0.0	-0.1	-0.1	-0.1	0.1	#DIV/0!	0.2	#DIV/0!

⑩ 注目したいセルに色を付けるなど、必要に応じて体裁を整えてください。

※ 「自制心」「勤勉性」については、当該学年で質問していないため、平均値は表示されません。

⑥ 実態を把握し、指導改善等につなげる。

(イ) 昨年度の学級における「主体的・対話的で深い学び」の実施の状況を把握【重要】

⇒ データ活用事業の結果において、「主体的・対話的で深い学び」が学習方略や非認知能力の向上を経由して、学力を伸ばしている可能性が示唆されたことから、昨年度の学級において、「主体的・対話的で深い学び」がどの程度実施されていたかを確認する。

	アクティブ・ラーニングの実施	学習方略						非認知能力		
		柔軟的方略	プランニング方略	作業方略	人的リソース方略	認知的方略	努力調整方略	自制心	自己効力感	勤勉性
1組	0.0	0.1	-0.3	-0.1	-0.2	-0.3	0.1	-	0.2	-
2組	-0.1	-0.2	-0.3	-0.5	-0.3	-0.2	-0.1	-	0.1	-
3組	0.3	0.0	0.2	0.0	-0.2	0.1	0.2	-	0.5	-
4組	0.2	0.1	0.2	0.1	-0.2	0.0	0.2	-	0.1	-

◎ 昨年度の学級担任や教科担当が確認し、自分が担当していた学級において、「主体的・対話的で深い学び」がどの程度実施されていると児童生徒が受け止めていたかを考察する。

※ 本帳票における「主体的・対話的で深い学び」の実施についての集計値は、児童生徒質問紙の集計結果であることから、教師が意識的に行ったかどうかではなく、児童生徒がどう受け止めていたかという値です。

【考察（例）】

- ・ 自分の行っている授業は、「主体的・対話的で深い学び」になっていたようである。
- ・ 自分は「主体的・対話的で深い学び」を行っているつもりであったが、児童生徒はそう受け止めていなかったようである。
- ・ 全クラスを見ると、特に、平成28年度に2組に在籍していた児童は、「主体的・対話的で深い学び」が実施されていたと受け止めていたようである。

**(ウ) 児童生徒の「学習方略」、「非認知能力」の変化量の把握**

⇒ 昨年度の「主体的・対話的で深い学び」の取組が、児童生徒の「学習方略」や「非認知能力」の向上に効果があったかを確認する。

	アクティブ・ラーニングの実施	学習方略					非認知能力			
		柔軟的方略	プランニング方略	作業方略	人的リソース方略	認知的方略	努力調整方略	自制心	自己効力感	勤勉性
1組	0.0	0.1	0.3	0.1	0.2	0.3	0.1	-	0.2	-
2組	-0.1	-0.2	-0.3	-0.5	-0.3	-0.2	-0.1	-	0.1	-
3組	0.3	0.0	0.2	0.0	0.2	0.1	0.2	-	0.5	-
4組	0.2	0.1	0.2	0.1	-0.2	0.0	0.2	-	0.1	-

**【考察（例）】**

- ・ 平成28年度の2組は、「主体的・対話的で深い学び」が実施されていた効果として、プランニング方略をはじめ多くの値が向上しているのではないだろうか。

**(エ) 昨年度、学習方略や非認知能力をよく伸ばした学級を把握**

⇒ 学習方略や非認知能力をよく伸ばしている学級の担任や教科担当が行っている取組や心がけていることなどを学校全体で共有し、指導改善に活かす。

	アクティブ・ラーニングの実施	学習方略					非認知能力			
		柔軟的方略	プランニング方略	作業方略	人的リソース方略	認知的方略	努力調整方略	自制心	自己効力感	勤勉性
1組	0.0	0.1	-0.3	-0.1	-0.2	-0.3	0.1	-	0.2	-
2組	-0.1	-0.2	-0.3	-0.5	-0.3	-0.2	-0.1	-	0.1	-
3組	0.3	0.0	0.2	0.0	-0.2	0.1	0.2	-	0.5	-
4組	0.2	0.1	0.2	0.1	-0.2	0.0	0.2	-	0.1	-

**【考察（例）】**

- ・ 1組と2組の担当者は、プランニング方略を向上させているようだ。1組と2組の担当者に、児童生徒質問紙の項目を参考に、聞き取りをしてはどうか。

**【児童生徒の「プランニング方略」を測定する質問項目】**

勉強するときは、さいしょに計画をたててからはじめる

勉強をしているときに、やっていることが正しくできているかどうかをたしかめる

勉強するときは、自分できめた計画にそっておこなう

勉強しているとき、たまに止まって、一度やったところを見なおす

- ・ 聞き取りの結果、1組の担任は児童生徒に家庭学習を計画的に行わせるために、独自の「学習計画表」を作成し、家庭と連携しながら、丁寧に見取を行っていることが分かった。また、2組の担当は、学習に取り組む際には、児童生徒に見通しを持たせる意識付けをするよう心がけていることが分かった。
- ・ よい取組や心がけを共有し、他の学級でも実施することで、学年全体の学力向上につなげよう。
- ・ 他の項目についても、学習方略や非認知能力をよく伸ばしている担当に、聞き取りをしてはどうか。

(オ) 昨年度、学年で共通して行った取組の効果を把握

	アクティブ・ラーニングの実施	学習方略						非認知能力		
		柔軟的方略	プランニング方略	作業方略	人的リソース方略	認知的方略	努力調整方略	自制心	自己効力感	勤勉性
1組	0.0	0.1	-0.3	-0.1	-0.2	-0.3	-0.2	-	0.2	-
2組	-0.1	-0.2	-0.3	-0.5	-0.3	-0.2	-0.3	-	0.1	-
3組	0.3	0.0	0.2	0.0	-0.2	0.1	-0.1	-	0.5	-
4組	0.2	0.1	0.2	0.1	-0.2	0.0	0.2	-	0.1	-
学年全体	0.1	0.0	0.0	-0.1	-0.2	-0.1	-0.2	-	0.2	-

【考察（例）】

- ・ 「努力調整方略」が、全学級で向上している。学年全体の取組の成果の可能性はある。児童生徒質問紙の項目を参考に、昨年度の取組の振り返ってみることとする。

【児童生徒の「努力調整方略」を測定する質問項目】

-----  
学校の勉強をしているとき、とてもめんどろでつまらないと思うことがよくあるので、やろうとしていたことを終える前にやめてしまう  
いまやっていることが気に入らなかったとして、学校の勉強でよい成績をとるためにいっしょうけんめいがんばる  
授業の内容がむずかしいときは、やらずにあきらめるか簡単のところだけ勉強する  
-----  
問題が退屈でつまらないときでも、それが終わるまでなんとかやりつづけられるように努力する  
-----

⇒ もしかしたら、最後まであきらめず宿題を全員にやりきらせる指導を、学年全体で共通して取り組んだことの成果かもしれない。来年度も継続して取り組んでみてはどうか。

4 その他、取り組んでいただきたいこと

本帳票の主な目的は、結果を基に「主体的・対話的で深い学び」の実施等についての状況を把握し、今後の指導改善等に活用していただくことにあります。

上記、(ア)～(オ)を参考に、学級や学年毎に状況把握していただくことはもちろんですが、学校全体で共有していただくことが大切です。

そこで、各学校におかれましては、

- 把握した状況について校内研修を実施する
- 学力や「学習方略」「非認知能力」を伸ばしている教員の授業参観を実施する

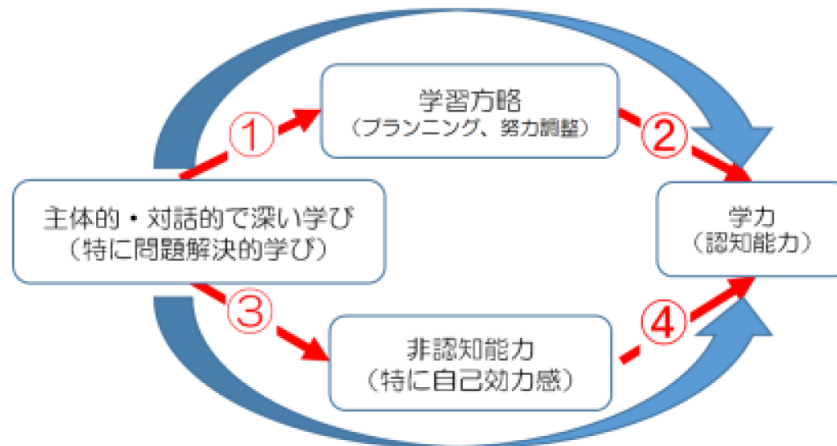
などの機会を設けることで、学校全体でよい取組を共有し、組織的に学力向上に取り組んでくださるようお願いいたします。



## 【別添 1】

「平成28年度埼玉県学力・学習状況調査のデータ活用事業」調査結果概要について【抜粋】

主体的・対話的で深い学び（特に問題解決的学び）が、学習方略・非認知の向上を通じて学力を向上させている可能性



- ① 問題解決的な学びと学習方略の3カテゴリーは正の相関関係
  - ・プランニング方略、作業方略、努力調整方略
- ② 学習方略の3カテゴリーと学力は正の相関関係
  - ・プランニング方略、認知的方略、努力調整方略
- ③ 主体的・対話的で深い学びと非認知能力は強い正の相関関係
- ④ 非認知能力（特に自己効力感）と学力は正の相関関係

【参考】埼玉県学力・学習状況調査のデータ活用事業 ホームページ

<https://www.pref.saitama.lg.jp/f2214/gakutyoubu/20150605.html>

【別添2】 本帳票に使用されている項目についての説明

項 目	説 明
<b>アクティブ・ラーニング の実施</b>	学級におけるアクティブ・ラーニングの実施状況を数値化した値 ※ 児童生徒質問紙の回答から算出した値のため、教師が実施したかどうかではなく、児童生徒が実施についてどう受け止めていたかという値
<p>【児童生徒質問項目（例）】 ※学年により、質問項目が異なります。</p> <p>あなたの〇年生の時の〇〇の授業では、次のようなことがどれくらいありましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 課題を解決するときに、それまでに習ったことを思い出して解決できたこと</li> <li>・ 自分の考えを理由をつけて発表したり、書いたりできたこと</li> <li>・ ノートやワークシート、プリントに書いた授業のまとめを先生に見てもらうこと</li> <li>・ グループで活動するときに、一人の考えだけでなくみんなで考えを出し合って課題を解決すること</li> <li>・ 授業で課題を解決するときに、みんなでいろいろな考えを発表すること</li> <li>・ 授業の始めに、先生から、どうやったら課題を解決できるか考えるように言われること</li> <li>・ 授業の始めには気が付かなかった疑問が、授業の終わりに、頭に浮かんできたこと</li> </ul>	

項目	説明
学習方略	子供が学習効果を高めるために意図的に行う活動（学習方法や態度）であり、次の①～⑥に分類される。
<p>① 柔軟的方略 … 自分の状況に合わせて学習方法を柔軟に変更していく活動  (例) 勉強の順番を変えたり、分からないところを重点的に学習する など</p> <p>② プランニング方略 … 計画的に学習に取り組む活動  (例) 勉強を始める前に計画を立てる など</p> <p>③ 作業方略 … ノートに書く、声に出すとといった、「作業」を中心に学習を進める活動  (例) 大切なところを繰り返し書く など</p> <p>④ 人的リソース方略 … 友人を利用して学習を進める活動  (例) 友達に勉強のやり方や分からないところを聞く など</p> <p>※ 分析結果では「人的リソース方略」は、児童生徒の学力と負の相関（人的リソース方略を利用する児童生徒ほど、学力が低くなる傾向）が報告されています。</p> <p>⑤ 認知的方略 … より自分の理解度を深めるような学習活動  (例) 勉強した内容を自分の言葉で理解する など</p> <p>⑥ 努力調整方略 … 「苦手」などの感情をコントロールして学習への意欲を高める活動  (例) 分からないところも諦めずに継続して学習するなど</p>	
【児童生徒質問紙の項目】	<p>-----</p> <p>柔軟的方略  勉強のやり方が、自分にあっているかどうかを考えながら勉強する  勉強でわからないところがあったら、勉強のやり方をいろいろ変えてみる  勉強しているときに、やった内容をおぼえているかどうかをたしかめる  勉強する前に、これから何を勉強しなければならないかについて考える</p> <p>-----</p> <p>プランニング方略  勉強するときは、さいしょに計画をたててからはじめる  勉強をしているときに、やっていることが正しくできているかどうかをたしかめる  勉強するときは、自分できめた計画にそっておこなう  勉強しているとき、たまに止まって、一度やったところを見なおす</p> <p>-----</p> <p>作業方略  勉強するときは、参考書や事典などがすぐ使えるように準備しておく  勉強する前に、勉強に必要な本などを用意してから勉強するようにしている  勉強していて大切だと思ったところは、言われなくてもノートにまとめる  勉強で大切なところは、くり返して書いたりしておぼえる</p> <p>-----</p> <p>人的リソース方略  勉強でわからないところがあったら、友達にその答えをきく  勉強でわからないところがあったら、友達に勉強のやり方をきく  勉強のできる友達と、同じやり方で勉強する  勉強するときは、最後に友達と答えあわせをするようにする</p> <p>-----</p> <p>認知的方略  勉強するときは、内容を頭に思い浮かべながら考える  勉強をするときは、内容を自分の知っている言葉で理解するようにする  勉強していてわからないことがあったら、先生にきく  新しいことを勉強するとき、今までに勉強したことと関係があるかどうかを考えながら勉強する</p> <p>-----</p> <p>努力調整方略  学校の勉強をしているとき、とてもめんどろでつまらないと思うことがよくあるので、やろうとしていたことを終える前にやめてしまう  いまやっていることが気に入らなかったとして、学校の勉強でよい成績をとるためにいっしょうけんめいがんばる  授業の内容がむずかしいときは、やらずにあきらめるか簡単のところだけ勉強する  問題が退屈でつまらないときでも、それが終わるまでなんとかやりつづけられるように努力する</p> <p>-----</p>

<p style="text-align: center;"><b>非認知能力</b></p>	<p>テストで計測される学力やIQなどとは違い、自分の感情をコントロールして行動する力があるなど性格的な特徴のようなものであり、本調査では次の4種類について質問を行っている。</p>
<p>① 自制心 … 自分の意思で感情や欲望をコントロールすることができる力 (例) イライラしていても人に八つ当たりしない など</p> <p><b>【児童生徒質問紙の項目】</b> 平成29年度の小学校5年生、中学校2年生に質問 (平成28年度は、小学校4年生、中学校1年生に質問)</p> <p>自制心</p>	<p>授業で必要なものを忘れた 他の子たちが話をしているときに、その子たちのじゃまをした 何か乱暴なことを言った 机・ロッカー・部屋が散らかっていたので、必要なものを見つけることができなかった 家や学校で頭にきて人やものにあたった 先生が、自分に対して言っていたことを思い出すことができなかった きちんと話を聞かないといけないうちにぼんやりしていた イライラしているときに、先生や家の人(兄弟姉妹を除きます)に口答えをした</p>
<p>② 自己効力感 … 自分はそれが実行できるという期待や自信 (例) 難しい問題でも自分ならできると考えられる など</p> <p><b>【児童生徒質問紙の項目】</b> 平成29年度の小学校6年生、中学校3年生に質問 (平成28年度は、小学校5年生、中学校2年生に質問)</p> <p>自己効力感</p>	<p>授業ではよい評価をもらえるだろうと信じている 教科書の中で一番難しい問題も理解できると思う 授業で教えてもらった基本的なことは理解できたとと思う 先生が出した一番難しい問題も理解できると思う 学校の宿題や試験でよい成績をとることができると思う 学校でよい成績をとることができるだろうと思う 授業で教えてもらったことは使いこなせると思う 授業の難しさ、先生のこと、自分の実力のことなどを考えれば、自分はこの授業でよくやっているほうだと思う</p>
<p>③ 勤勉性 … やるべきことをきちんとやる力 (例) 宿題が出されたらきちんと終わらせる など</p> <p><b>【児童生徒質問紙の項目】</b> 平成29年度の中学校1年生に質問 (平成28年度は、小学校6年生と中学校3年生に質問)</p> <p>勤勉性</p>	<p>うっかりまちがえたりミスしたりしないように、やるべきことをやります ものごとは楽しみながらがんばってやります 自分がやるべきことにはきちんと関わります 授業中は自分がやっていることに集中します 宿題が終わったとき、ちゃんとできたかどうか何度も確認をします ルールや順番は守ります だれかと約束したら、それを守ります 自分の部屋や机の周りにはちらっています 何かを始めたら、絶対終わらせなければいけません 学校で使うものはきちんと整理しておくほうです 宿題を終わらせてから、遊びます 気が散ってしまうことはあまりありません やらないといけないことはきちんとやります</p>
<p>④ やりぬく力 … 自分の目標に向かって粘り強く情熱をもって成し遂げられる力 (例) 失敗を乗り越えられる など</p> <p><b>【児童生徒質問紙の項目】</b> 平成29年度の小学校4年生に質問 (平成29年度新規)</p> <p>やりぬく力</p>	<p>大きな課題をやりとげるために、しっばいをのりこえてきました 新しい考えや計画を思いつくと、前のことから気がそれてしまうことがあります きょう味をもっていることやかん心のあることは、毎年かわります しっばいしても、やる気がなくなってしまうことはありません 少しの間、ある考えや計画のことで頭がいつぱいになっても、しばらくするとあきてしまいます 何事にもよくがんばるほうです いったん目ひょうを決めてから、その後べつの目ひょうにかえることがよくあります 終わるまでに何か月もかかるようなことに集中しつづけることができません 始めたことは何でもさいごまで終わらせず 何年もかかるような目ひょうをやりとげてきました 数か月ごとに、新しいことにきょう味を持ちます まじめにコツコツとやるタイプです</p>



## 第4章

# 特徴的な学校の取組の紹介

児童生徒の学力を大きく伸ばした学校の実践を紹介します。

本調査を活用し、児童生徒の「学力の伸び」を引き出した効果的な取組を、自校での今後の取組の参考にしてください。

今年度は、8校の取組を紹介します。

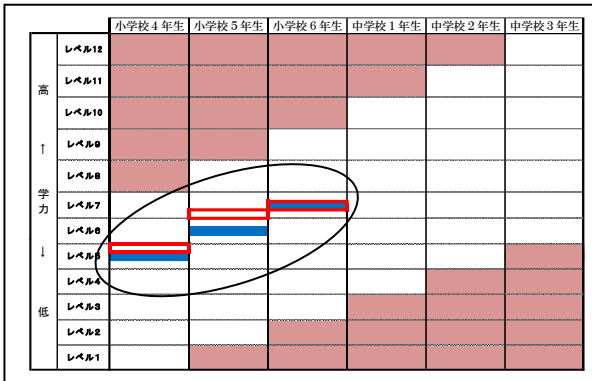




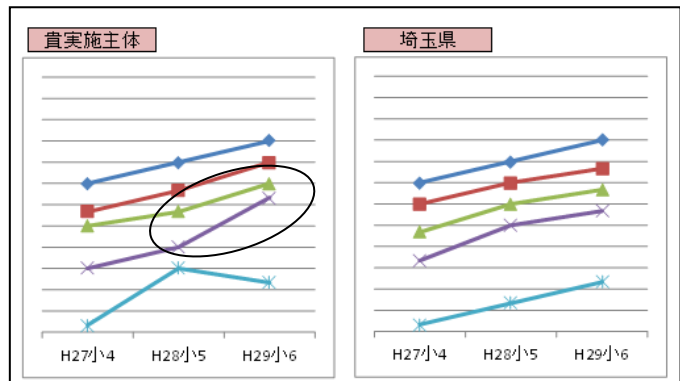
## 小学校5年生→小学校6年生の取組

### (1)「学力の伸び」から見られる特徴【国語】

#### 今までの学力の変化



#### 「学力の伸び」の状況



- 学力のレベルは、小4時に県平均を下回り、小5時は県平均との差が開いたが、小6時には、県の伸びを上回り、県平均に追いついている。
- 小5から小6にかけて、特に下位層・中位層の「学力の伸び」が大きい。

### (2)「学力の伸び」を引き出した効果的な取組

#### ア 感想を伝え合い、考えを広げ、深める活動の充実

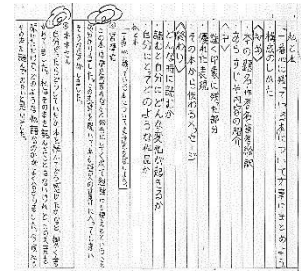
教科書や資料などを読ませる際に、以下のような支援を行った。

- ① 自分の考えがどの叙述に基づいているか、経験とどのように結びついているかを意識させながら考えをまとめさせる。身近な出来事を例として示し、書き出しマス目黒板を用いて書き方の指導を行う。
- ② 自分の考えや感じたことの部分に線を引かせることで明確化を図り、他の児童の考えや感じたこととの違いを確認させる。

- ③ 特に、中位層から下位層には、理由等を明確にするために、具体的な事柄を箇条書きさせてから、自分の考えをまとめさせる。

#### イ 目的や意図に応じて、文章構成を考えて書く活動の充実

- ① 自分の考えを明確に伝えるために、目的や意図、相手に応じて文章全体の構成を示したヒントカードを基にして考えさせる。
- ② 中位層から下位層には、具体的な例を示し文章構成を考えさせる。
- ③ 読み手の立場に立って文章を書くために、活動の目的を示し、話し合いの話型のプリントに従って、ペア学習等を行う。発表を聞き合うことで、文章の見直しもさせる。



文の構成と伝え合いの活動

## 学校全体での取組

#### ア 算数での問題解決型の学習の共通理解・共通指導

学力向上プランを基に、学校全体で板書の仕方等を共通にしている。さらに、学年間の円滑な連携を図り、常に系統性を意識した板書を行ってきた。児童が1時間の学習の流れを想起できるような板書を行うことで、児童に合わせたノート指導を行うことができる。

学力の伸びが小さい児童に対しては、課題、見通しを明確にもたせるとともに、振り返りまでしっかりと行うように支援した。

#### イ 国語での言語活動の充実を図るための共通理解、共通指導

領域ごとに身に付けたい事項の視点を低・中・高学年ごとに設定した。「A話すこと・聞くこと」の領域では、話し合いの活動についての視点を設定した。また、「B書くこと」では、交流の場面での視点を設定した。特に「学力の伸び」が小さい児童に対しては、①本時の課題を明確に捉えさせること②しっかりと見通しがもてるようにすること③課題解決に向けて本文中でポイントとなる叙述に気付かせたり、確認したりして解決を図れるようにすることなどの支援をした。



# 富士見市立針ヶ谷小学校の取組

## 1 本校の概要

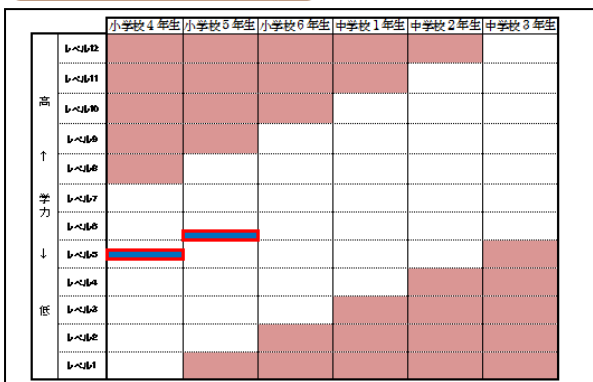
本校は開校 34 年目。児童数 316 名、14 学級の中規模校である。東武東上線みずほ台駅西側から国道 463 号線にかけての学区で、学区内には公園も多く、落ち着いた環境である。保護者の学校教育に対する関心は高く、学校を支援する活動(学習ボランティア・地域清掃・花壇整備等)の参加者も多く協力的である。家庭状況は一様ではないが、子どもとのふれあいを大切に、愛情をもって育てている家庭が多い。子どもたちは明るく穏やかで、生活態度も比較的落ち着いている。学校教育目標、「自分で考える子・助け合う子・じょうぶな子」の実現を目指し、「子どもたちが期待に胸をふくらませて登校し、笑顔で生活する学校」「子どもたちが生き生きと学び合い、生きる力をはぐくむ学校」づくりを推進している。

## 2 平成 28・29 年度の結果

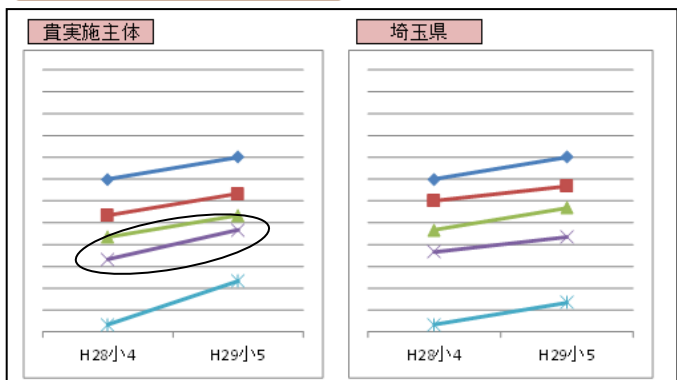
### 小学校 4 年生→小学校 5 年生の取組

#### (1) 「学力の伸び」から見られる特徴【算数】

##### 今までの学力の変化



##### 「学力の伸び」の状況



○ 下位層の学力が大きく伸びている。

#### (2) 「学力の伸び」を引き出した効果的な取組

##### ア 個に応じた少人数指導の実施

個に応じた指導を充実させるため、少人数指導による授業では、どんどんコース、考えるコース、じっくりコースと 2 学級を 3 グループに分けることを基本としている。学習内容や児童の状況に応じて 2 コースに分けるなど、意図的なグループ分けを行った。じっくりコースでは、特に既習事項を確実におさえてから授業を行うようにしている。



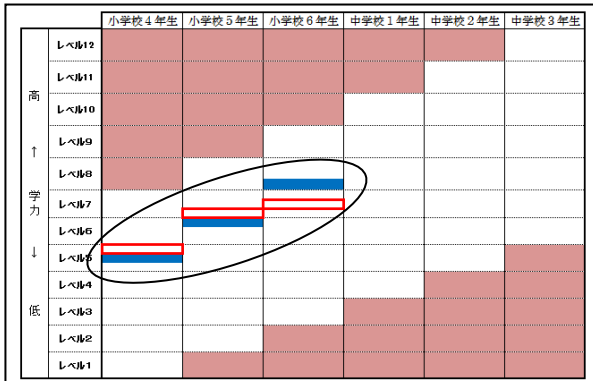
##### イ 効果的な家庭学習・家庭との連携

次の単元に必要な既習事項が入っている家庭学習を出すことで、スムーズに授業に取り組めるように工夫している。また、児童の学習課題を共有するなど、家庭との連携を深めることで、児童の家庭学習の効果を高め、学力向上を図った。

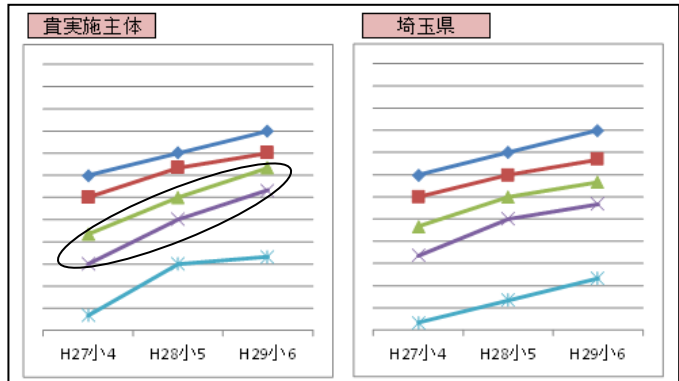
## 小学校5年生→小学校6年生の取組

### (1)「学力の伸び」から見られる特徴【国語】

#### 今までの学力の変化



#### 「学力の伸び」の状況



- 小4、5年時は県平均を下回っていたが、小6時に大きく伸び、県平均を上回った。
- 中位層・下位層の「学力の伸び」が大きい。

### (2)「学力の伸び」を引き出した効果的な取組

#### ア 学校課題研究における国語部会の取組

授業の構造化を図るため、授業の展開として、「自分で考える（主体的）→グループで考える（対話的）→全体で考える（対話的）→自分で考える（深い学び）」という流れで授業を展開した。

課題に対して、児童一人一人が自分の考えをもてるように工夫し、自分の考えを持ったときになぜそう考えたのか、根拠になる文に線を引いたり考えを書かせたりすることを重視した。

また、児童一人一人が活動する時間を多く確保した。

#### イ 学年間の共通理解・共通行動

2クラスが同一歩調で授業に取り組んだ。経験年数2年目と8年目の教員で学年を構成していたが、若手教員が中堅教員の授業参観を行えるなど、風通しのよい学年経営を心がけた。それにより、若手教員が明確な課題の設定や板書の活用の仕方等の指導法を学ぶとともに、中堅教員も参観されることで授業改善につなげることができた。

## 学校全体での取組

### (1) ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくり

学校全体で共通理解を図り、「個別の支援や配慮を、最初から全員に向けて行う」「どの子ども『わかった』と思える授業」を目指し、学習環境（落ち着いて学習に取り組める教室づくり、板書の工夫等）を整え、授業づくり（学習内容の焦点化・展開の構造化・時間の構造化・場の構造化・指示の出し方の工夫等）に取り組んでいる。

### (2) 主体的に取り組める算数プリントの活用

平成27年度より算数ドリルではなく、5～10分で取り組める算数プリントを導入し活用している。印刷したプリントを分類した棚を廊下に配置したことで、業前、授業中、空き時間、家庭学習等で児童が主体的に活用している。全学年のプリントがあるため、前の学年の復習をする児童も多にいる。

### (3) 朝の時間帯の活用

朝の15分程度の時間を使い、算数・国語がんばりタイムなどを全学年で行っている。各学年で工夫して取り組みながら、説明・丸付け・見直しまで行うことで、児童の苦手、得意な部分を把握し、その後の授業に活かしている。



算数プリントの活用





# 深谷市立深谷西小学校の取組

## 1 本校の概要

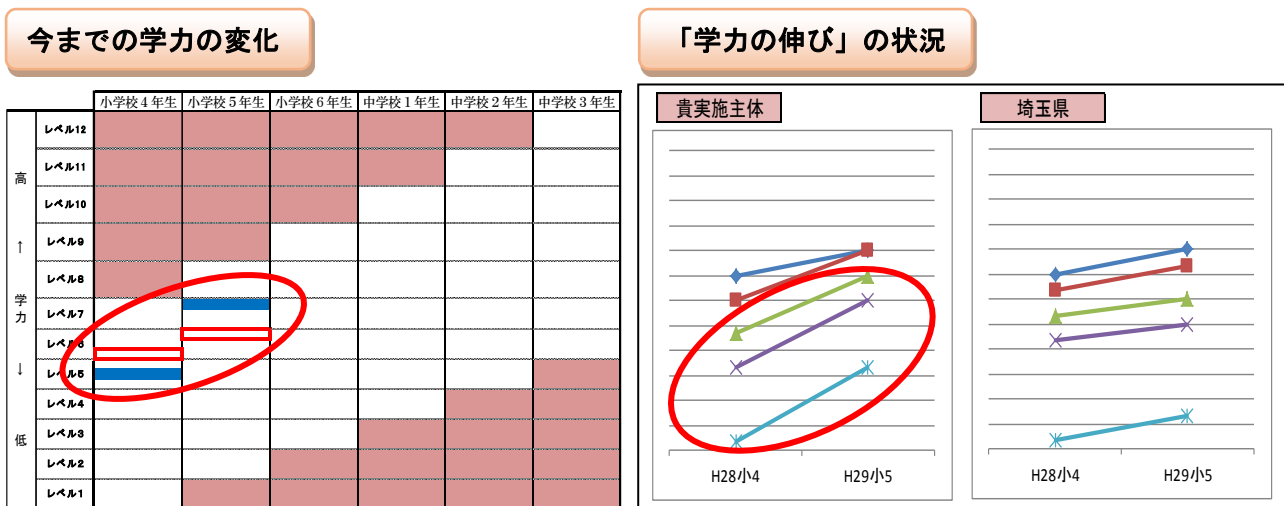
本校は、深谷市街の西部に位置し、本年度は、開校 57 周年を迎える学校である。全校児童数は、525 人、学級数は 20 の中規模校である。

学校教育目標「かしこい子 やさしい子 たくましい子」のもと、めざす学校像～夢や志をはぐくみまごころと思いやりのあふれる学校～真剣に学び、「学校が楽しい」と言える子を育てるとし、全校職員が一丸となって教育活動に取り組んでいる。一昨年度から、研究課題を「児童一人一人の学力向上を目指した指導と評価の工夫」～自分の思いや考えを伝え合う力を育む外国語活動の授業づくりを中心として～と設定し、外国語、国語、算数の授業改善を中心に進めている。

## 2 平成 28・29 年度の結果

### 小学校 4 年生→小学校 5 年生の取組

#### (1) 「学力の伸び」から見られる特徴【国語】



- 国語の学力のレベルが7上昇し、県平均を大きく上回っている。
- 全体的に大きな伸びが見られるが、特に下位層・中位層の「学力の伸び」が大きい。

#### (2) 「学力の伸び」を引き出した効果的な取組

- ア 身に付けさせたい力を明確にした授業づくり  
 単元ごとに、どのような力を身に付けさせたいのか明確にするとともに、単元終了後の児童の姿（ゴール）を具体的にイメージして授業を組み立てる。  
 また、6年間の学習の系統性を明らかにした指導計画を作成し、指導事項を確実におさえる。
- イ 自分の思いや考えを伝え合う活動の重点化  
 授業の中で、意図的に根拠や理由を児童に表現させる場づくりを行う。児童の発言に対して、教師が「つなぐ発問」を行い、よりよい表現に高められるように支援する。  
 また、付箋などのシンキングツールを活用し、活動を言語化させながら、自己への振り返りを確実に行わせる。



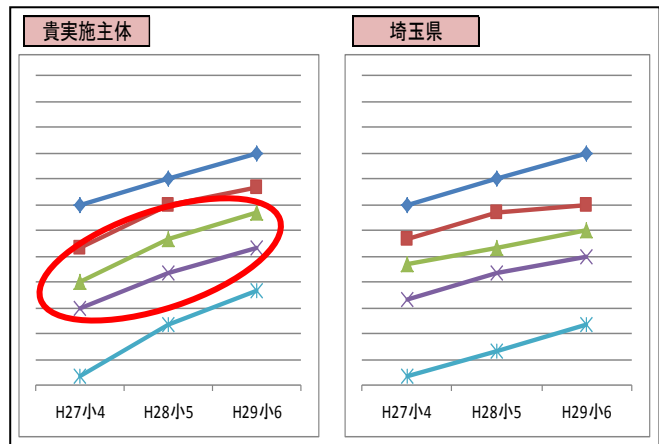
## 小学校5年生→小学校6年生の取組

(1) 「学力の伸び」から見られる特徴【算数】

### 今までの学力の変化

	小学校4年生	小学校5年生	小学校6年生	中学校1年生	中学校2年生	中学校3年生
高	レベル12					
	レベル11					
	レベル10					
↑	レベル9					
	レベル8					
	レベル7					
	レベル6					
	レベル5					
	レベル4					
↓	レベル3					
	レベル2					
	レベル1					

### 「学力の伸び」の状況



- 学力のレベルは、小4時、県平均を下回っていたが、小6時では県平均を大きく上回っている。
- 特に、下位層、中位層の「学力の伸び」が大きい。

## (2) 「学力の伸び」を引き出した効果的な取組

### ア グッドモデルの活用

式や図を言語化させて説明し合う活動を、意図的に授業の中に取り入れていく。クラスやグループで児童が説明し合う中でよい説明の仕方の例「グッドモデル」を児童に作らせ、クラス全体に広めていく。このグッドモデルを活用し、説明活動を行わせることで児童の言語能力を高めるとともに学習内容の定着を図る。

### イ ノート指導案の作成

本時の課題や学習内容を明確にした授業が展開できるようにするために、児童が授業でノートに書く内容を想定しながら、児童と同じノートで例を作り、授業計画を立てる「ノート指導案」を毎時間作成した。

児童のノートを想定した板書により、児童に分かりやすいノートづくりが行えるとともに、ポイントをおさえた授業が行えるようになり、児童が問題に取り組んだり、考えたりする時間を十分確保できるようになる。



あらかじめノート指導案を作成しておくことで、児童の思考の流れがわかるノートになる

## 学校全体での取組

ア 全員が授業研究を行ったり、市が作成した基本的な授業の型を示した「深谷市スタンダード」を日々の授業で活用したりして、本時の課題とまとめを明確にした授業を心がけた。

### イ 学習環境の充実

発表の仕方や学習に効果的な掲示を行い、復習に活用させる。

### ウ 学習プリントコーナーの設置

国語や算数を中心とした学習プリントコーナーを整備し、授業や家庭学習に活用させる。

### エ 生活リズム調査

毎週月曜日「早寝、早起き、朝ご飯、朝うんち」調べを実施し、生活リズムを整える支援をする。



自由にプリントをもらえる  
プリントコーナーを設置





# 春日部市立牛島小学校の取組

## 1 本校の概要

本校は春日部市のほぼ中央部に位置し、国の特別天然記念物に指定された「牛島の藤」を学区内に有する緑豊かな地域である。昭和 50 年に開校し、今年 43 年目を迎える。広い敷地と緑豊かな環境の中で「豊かな心と進んで学ぶ心を持ち、明るくたくましく生きる児童の育成」を目指している。



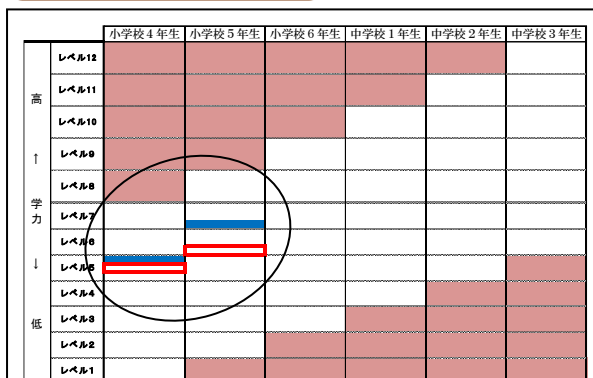
平成 26 年度より春日部市の委嘱を受け、「協同学習」を取り入れた学校課題研修に取り組んできた。本年度より「主体的・対話的に学びを深める児童の育成～協同的な学びを取り入れた授業づくりを通して～」という研究主題のもと、授業改善に努めている。

## 2 平成 28・29 年度の結果

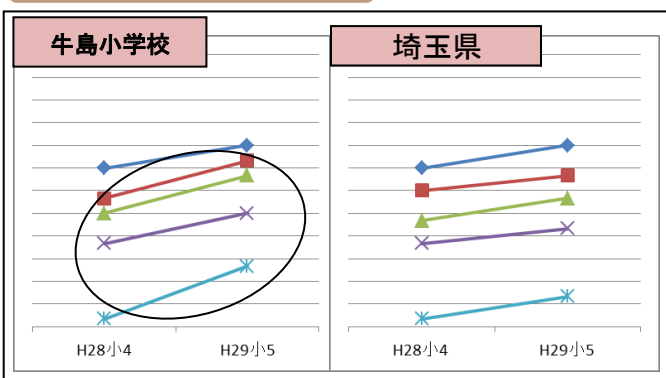
### 小学校 4 年生→小学校 5 年生の取組

#### (1) 「学力の伸び」から見られる特徴【算数】

##### 今までの学力の変化



##### 「学力の伸び」の状況



- 小から小5にかけて、学力のレベルが 4 上昇している。
- 低位層、中位層共に「学力の伸び」が大きい。

#### (2) 「学力の伸び」を引き出した効果的な取組

ア 目標を明確にし、見通しをもたせ、振り返る授業づくり

- ① 授業の初めに目標を明確に示す。目標に向けてどのように取り組んでいくのか、身に付けたい力や成果は何なのか、全員にはっきり分かる表現にする。

例：「なぜ、豆太は『モチモチの木に灯がついている。』と言ったのだろうか。そのわけを探し、考えて、仲間にも自分の意見が言えるようになる。」

- ② 見通しを立てる際、「学びの時計」を活用する。(右図参照)
- ③ 終わりには目標を、同じ言葉で再度問いかける。



「学びの時計」

イ 確実な適用問題までの実施。(毎時間)

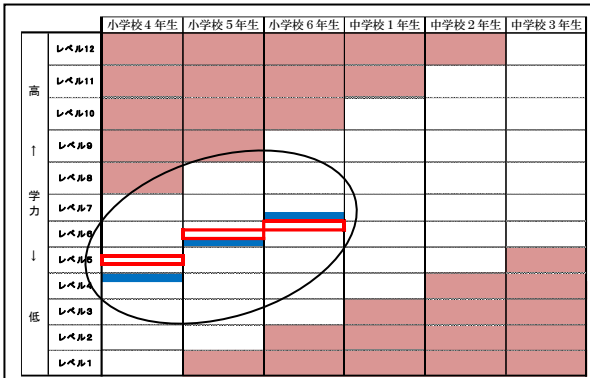
ウ 単元別評価テストを活用した取組

- ① 単元終了時に、1 回目の単元テストを行う。問題ごとに不正解の児童の名前を記録する。
- ② 学期末に 2 回目の評価テストを行う。1 回目で不正解だった児童が正解したら、メモした名前を消す。得点とともに、1 回目との点数差を記入して返却する。例：↑ 2 0   ↓ 1 0
- ③ 2 回目で不正解だった児童には、個別指導を行う。

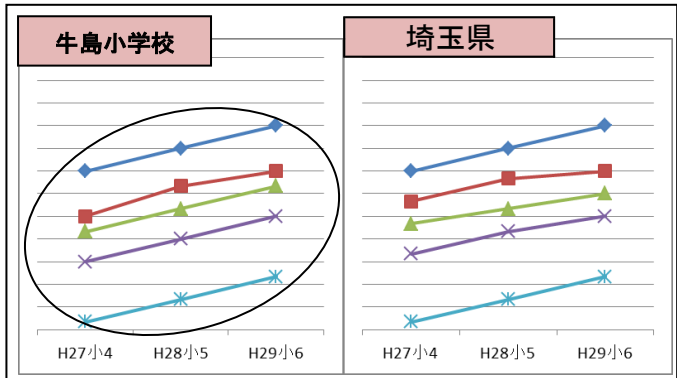
## 小学校5年生→小学校6年生の取組

### (1)「学力の伸び」から見られる特徴【算数】

#### 今までの学力の変化



#### 「学力の伸び」の状況



- 学力のレベルが小4から小5は4、小5から小6は3と、県平均より大きな伸びを示している。
- 低位層、中位層、高位層ともに伸びている。

### (2)「学力の伸び」を引き出した効果的な取組

#### ア 児童が「学び合い」をしやすい環境作り

グループでの聴き合いや全体での共有がしやすいように、常時、机をコの字型で授業を行う。



#### イ 各種問題集等の活用

- ①「全国学力テスト問題（学年ごと、単元ごとに分けた問題集を独自に作成）」
  - ②「コバトン問題集」、③「県学調復習シート」、④「春日部市算数検証テスト事前シート」
- ①から④を授業中や家庭学習、朝学習の課題として活用する。  
 ※各問題を、3年生以上が継続的に使用できるよう、印刷室に分かりやすくファイリングしておく。(右図参照)



## 学校全体での取組

#### ア 「牛島小学校の目指す授業」学校課題研修における共通理解

- ① 学級のメンバー全員のさらなる成長を追求することが大事なことだと、全員が心から思っ  
て学習している授業
- ② あたたく聴き合う関係が成立しており、学習規律が整い、落ち着いて学べる授業
- ③ 子供たちがなかまの力を借り合いながら、課題に向かって一人残らず学びに参加している  
授業
- ④ 教師自身も協同的に学び合っており、教科の本質を踏まえた教材研究・質の高い課題づく  
りがなされ、教師の言葉や動きが洗練されている授業
- ⑤保護者や地域が学校の取組を理解し、協力体制のできている授業（学校）

#### イ 「分らなさ」「困り感」を出発点とし、学び合う授業づくり

- ・ 「分かった人?」「分かりましたか?」ではなく、「分からない人?」「困ったことはありますか?」という問いかけから始まり、そこから「学び合う」授業づくりを進める。
  - ・ 「分らなかつたら、分からないから教えて、と聞くんだよ。」「聞かれたら、丁寧に（答えではなく解き方・考え方を）教えるんだよ。」という指導を継続する。
- ※「終わった人は、分からない人に教えてあげてください。」という指導は行わない。

#### ウ 「あたたく聴き合う関係」の構築

- ・ グループの学び合いでは、「自分の考えを伝えなさい」から始めるのではなく、「友だちの話をまず、よく聴くんだよ」から始めるよう指導する。
- ・ 「学び合いの技能シート」をレベル1から4まで作成し、各学級に掲示して活用する。(右図参照)

#### レベルその2 学び合い活動で、さらに効果的な結果を生むための技能

- 1 意見やアイデアを、みんなで分かち合う。  
「ぼくはこういうことを思ったよ。」「わたしはこう思うんだ。」
- 2 他のメンバーと賛同をし、考えや意見を求める。  
「どうしてそう思ったの。」「どこからそう思ったの。」
- 3 グループの学習に、方向性を与える。  
「わたしたちは、〇〇を築くために学習を頑張っているんだよね。」(ねらいの確認)。  
「このやり方で、詳細に食むかなあ。」(詳細の確認)。  
「この方法の方が、いいかもしれないよ。」(より効果的な提案)。
- 4 みんなに参加を呼びかける。  
「鈴木さんは、どう思う?」。



# 朝霞市立朝霞第四中学校の取組

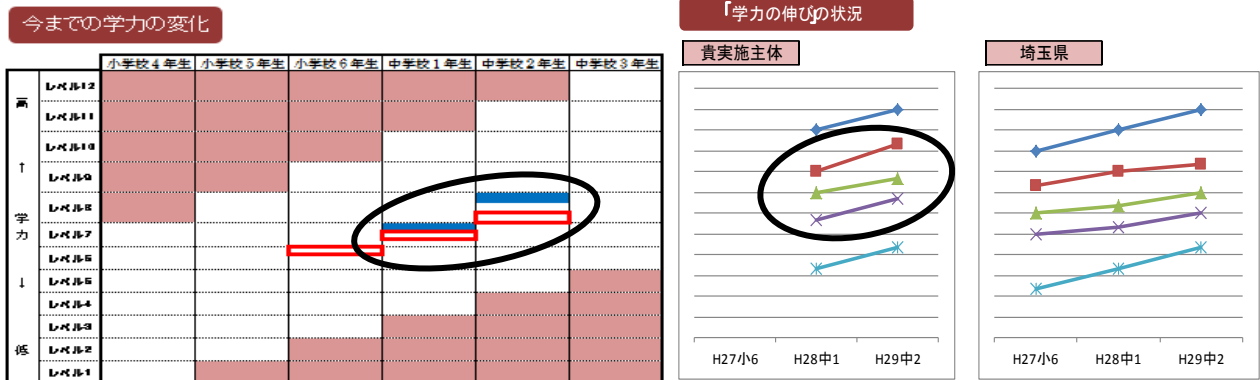
## 1 本校の概要

昨年度、創立 40 周年を迎え、卒業生の多くが現在も母校四中のために協力するとともに、地域を支えている。学区内は朝霞市の体育施設や市立図書館等の文化施設があり、教育環境として大変恵まれた地域となっている。学校教育目標は、「自ら学ぶ生徒・心豊かな生徒・たくましい生徒・のぞみつつける生徒」を掲げ、知・徳・体、の項目の最後に、「夢」を加えて、生徒たちの生きる力をはぐくむ学校づくりを行い、「大好き四中」として母校四中を誇りとする生徒の育成を目指している。

## 2 平成 28・29 年度の結果

### 中学校 1 年生→中学校 2 年生の取組

#### (1) 「学力の伸び」から見られる特徴【数学】



- 数学の学力レベルで、県平均を大きく上回る伸びが見られた。
- 特に、中位層から上位層にかけての伸びが大きい。



#### (2) 「学力の伸び」を引き出した効果的な取組

##### ア アクティブ・ラーニングを積極的に取り入れた授業展開の工夫

単元で 1、2 時間程度、ジグソー法を用いた話し合い活動を実施した。単元のまとめでジグソー法による授業を実施することで、エキスパート活動で既習事項を確認し、ジグソー活動でそれらを組み合わせて発展的な課題の解決を図り、クロストークで解決方法を練り上げるようにした。これにより、自分の言葉で他者に伝える表現力を育成するとともに、既習事項を活用して新たな考えを導き出す発展的な考え方や、共通点を見出すなどの統合的な考え方を身に付けさせることができた。

##### イ 学習会の実施による個に応じた支援

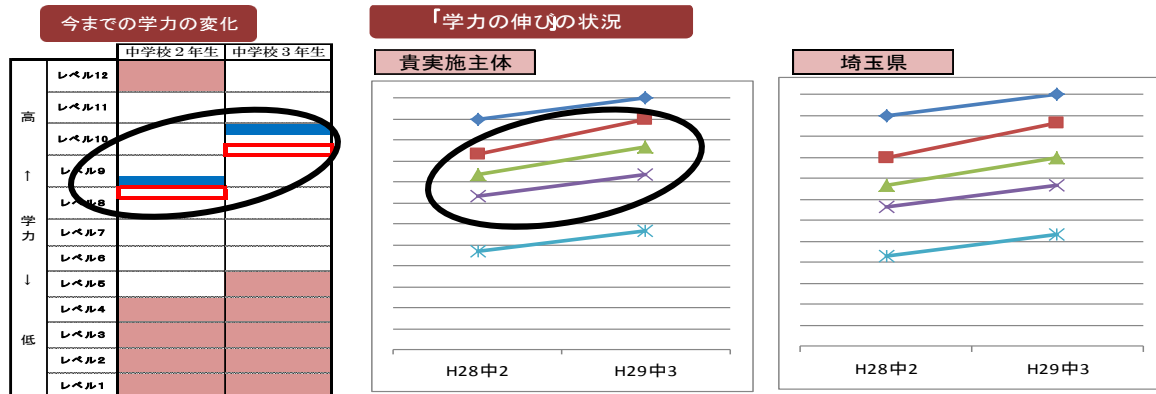
長期休業中や定期試験前などに学習会を開催した。学習会では、授業でも実施している級別テスト形式のプリントを用いた。単元ごとに、基本的な問題の 10 級から、発展的な問題の 1 級までのプリントを用意し、合格するごとに上の級に進めるようにした。下位層への基礎・基本の定着だけでなく、中位層以上の生徒への発展的な内容への挑戦となり、生徒が主体的に取り組んだ。

##### ウ 授業開始時の復習プリント活用による既習事項の徹底

授業開始時に、前単元の授業内容を復習するプリントを、毎時間継続的に 5 分間行った。問題は基礎・基本に限らず、発展的な内容も含めている。授業開始前の休み時間に係が配布することとなっているが、時間内に終わらない生徒は、次第に授業開始前から自発的に取り組むようになった。

## 中学校2年生→中学校3年生の取組

### (1) 「学力の伸び」から見られる特徴【英語】



- 中学2年生から中学3年生にかけて大きく伸びている。
- 特に、中位層から上位層の伸びが県平均を上回っている。

### (2) 「学力の伸び」を引き出した効果的な取組

#### ア ペア活動による継続的な基礎的・基本的事項の習得

1年生から毎時間の帯活動として、ペアになり一方が日本語で言った文を相手が英語に直す「弾丸インプット」に取り組ませている。2年生序盤まではフォニックスや教科書の基本文、2年生の中盤からは、埼玉県の公立高校入試の長文から問題を作成した「入試弾丸インプット」に取り組ませた。時間は3分ずつの設定で、20問前後としている。上位層は全ての解答を終える時間に重点を置いたり、別の生徒に適切な助言を与えることで力を伸ばしたりすることができる。下位層は教え合い活動を通じて効果的にインプットできる。



#### イ ICT機器や身近な話題を生かした導入の工夫

文法はICT機器を活用し、生徒たちが興味をもっているアニメのキャラクターや芸能人を登場させることによって生徒の集中力を高めている。さらに、言語の使用場面を生徒の実生活により近づけるために、普段生徒が話している内容を取り入れて例示するなどの導入の工夫を行っている。

#### ウ 既習事項を定着させるための場の設定の工夫

- ① 聞く場面、書く場面、活動する場面などの切り替えを明確にし、授業にメリハリをもたせた。
- ② 板書はできるだけシンプルにし、生徒が教師の話や生徒の話に耳を傾けるよう徹底するとともに、生徒が問題演習に取り組む時間を確保することで、既習事項の定着につなげている。
- ③ 上位層から下位層までどの段階の生徒も取り組める課題を設定し、話す場面では1回の授業でできるだけ全員に発言する機会を設けている。

#### エ パフォーマンス試験におけるALTの活用

生徒が、直接ALTと関わる時間が重要と捉え、パフォーマンス試験にALTを活用している。

## 学校全体での取組

ア 「目指すべき生徒像」を各教科で設定した上で、達成に向けた学力向上プランを作成し実践している。

イ 「言語活動を踏まえた学びのサイクル」(聴く→考える→まとめる→話す)を意識した授業展開をすべての教科で実施するとともに校内に掲示し、共有化を図っている。

ウ 「四中スタンダード」で授業規律を統一、徹底している。(時間を守る、忘れ物をしない、始業と終わりの礼をしっかりとる、返事をし、はっきり答える、集中して聴き、進んで課題に取り組む)





# 滑川町立滑川中学校の取組

## 1 本校の概要

本校は、埼玉県のほぼ中央に位置する滑川町にある唯一の中学校である。目の前には国営の武蔵丘陵森林公園があり、緑豊かな環境の中、日々の生活を送っている。また、新興住宅地でもあり、現在も生徒数が増加を続けている。全校生徒数は597人、学級数21の中規模校である。



学校教育目標「自ら学ぶ生徒（かしこく） 思いやりのある生徒（なかよく） すすんで心身を鍛える生徒（たくましく）」の下、全教職員が一丸となって教育活動に取り組んでいる。一昨年度から研究課題を「学力向上のための授業改善」と設定し、小・中連携や主体的・対話的な深い学びの視点から授業改善を進めている。

## 2 平成28・29年度の結果

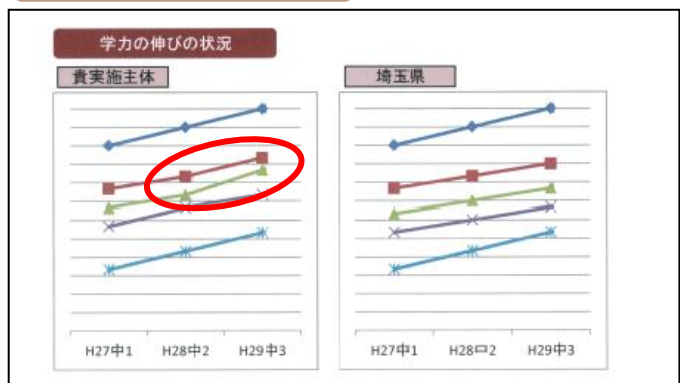
### 中学校2年生→中学校3年生の取組

#### (1) 「学力の伸び」から見られる特徴【数学】

##### 今までの学力の変化



##### 「学力の伸び」の状況



- 「学力の伸び」が県の伸びを上回っている。
- 上位層・中位層の「学力の伸び」が特に大きい。

#### (2) 「学力の伸び」を引き出した効果的な取組

##### ア 対話的で深い学びの視点に立った授業改善

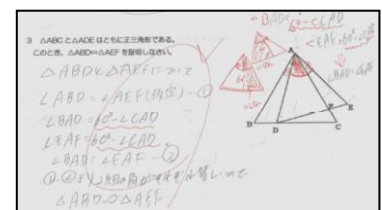
- ・ 学び合い、教え合う活動を通して、生徒が互いの考えを比較検討し、よさを取り入れながら課題を解決できるようにした。また、ICTを活用した授業改善や教材開発を行い、視覚的に課題を捉えたり、考えを共有したりすることについて改善を図った。
- ・ 単元ごとに、学力のレベルに応じた課題プリントを作成した。難易度の高い問題も意図的に出題しており、授業中だけでなく、休み時間にも生徒が教え合いながら取り組むなどの波及効果を生んでいる。



<電子黒板を活用した授業①>

##### イ 学力向上のための個に応じた学習指導体制

- ・ 数学科では、3学年の全ての時間を2人体制で授業を行っており、丁寧に机間指導することを心掛けた。また、習熟度別学習を行う等、状況に応じて指導形態を変えながら個に応じた学習指導を行った。

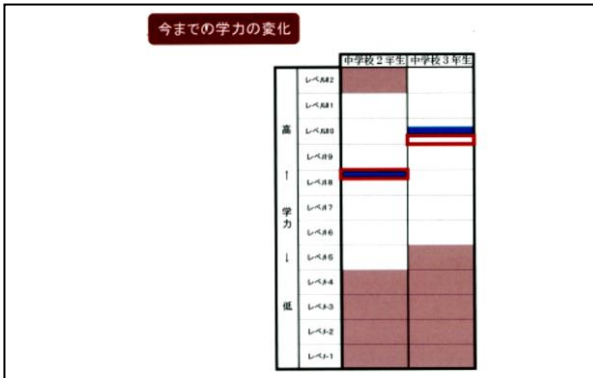


<課題プリント>

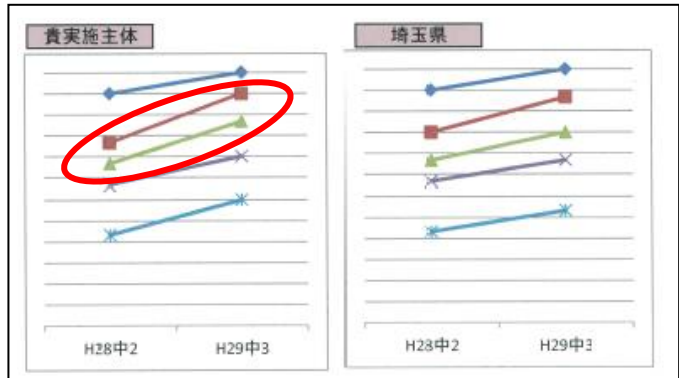
## 中学校2年生→中学校3年生の取組

### (1)「学力の伸び」から見られる特徴【英語】

#### 今までの学力の変化



#### 「学力の伸び」の状況



○ どの学年も伸びているが、特に上位層と中位層の「学力の伸び」が大きい。

### (2)「学力の伸び」を引き出した効果的な取組

#### ア パフォーマンステストの実施につなげる基礎・基本の徹底

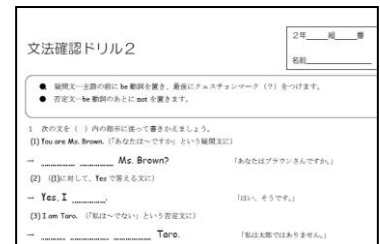
- 既習事項を使った一問一答の会話練習を、1年生2学期から毎時間行い、それを基にした会話テストも各学期に1回行った。様々な習熟度の生徒が全員参加できるように、使用する教材は同じ内容のものを両面印刷して、片方には読み仮名を振った。これにより、全ての生徒が参加しやすくなり、結果としてほぼ全員が会話テストで高得点を取ることができた。
- 1年生からの既習文法問題を定期的に授業の最初に行い、授業の最後に採点したものを返却した。採点結果を踏まえた解説と、即座に解き直しを行わせることで定着を図った。
- 1年生から継続して教科書の音読を行っている。2年生では、1・2年生両方の教科書を使用して行った。



<電子黒板を活用した授業②>

#### イ 基礎的な学力の定着を図るための個に応じた学習指導体制

- 週に2回のチーム・ティーチングの授業で、既習文法問題の取組中に複数の教員による机間指導を行い、生徒へのきめ細かな支援を行った。週1回の会話習熟度確認テストでは、一人一人にかかる時間を増やすことができ、指導と支援を充実させることができた。



<英文法確認ドリル>

### 学校全体での取組

#### ア 1時間の授業の流れの確立

全ての授業で、毎時間ごとに本時の「めあて」を明確にし、学習の見通しをもたせ学習に取り組ませる。また、授業終了後には、「めあて」に立ち返り、各自の言葉で「まとめ」をし、授業の内容の理解を促すと共に、本時の学習内容の価値付けを行っている。

#### イ 学習規律の徹底及び授業参観による指導力の向上

落ち着いた雰囲気の中で授業を受けることは、学習の基本である。各授業において学習規律を徹底することはもちろんのこと、空き時間の教員が担当の時間を決め、授業開始前から授業中にかけて校内巡回を行っている。各教室の廊下側がガラス張りのため、授業の様子が把握しやすくなっている。



<生徒のまとめを見取る>

#### ウ 授業参観による指導力の向上

教師が互いの授業を見合い、意見交換をする中で指導力の向上につなげている。



# 皆野町立皆野中学校の取組

## 1 本校の概要

本校は、学級数・生徒数、1年2学級74名、2年3学級87名、3年3学級84名、特別支援学級2学級6名の合計10学級251名（男子120名、女子131名）の学校である。

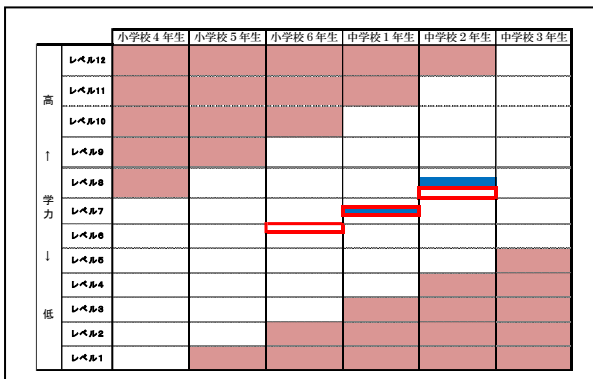
本校は埼玉県教育委員会から「一人一人に目を向けたアドバンスド事業」研究校の指定を受け、「個に応じたきめ細かい指導の充実による学力向上」を主題とし、町内の小学校と連携しながら、3年間継続して取り組んできた。本年度は「未来を切り拓きたくましく生き抜く力を育てる教育の推進～系統的・発展的なキャリア教育の推進とグローバル人材の育成」を研究主題としている。校長、教頭、主幹教諭、各部の部長等による学力向上研究推進委員会を設置し、学習規律・学習環境部会、指導技術向上部会、地域・家庭連携部会の3部会に分かれ、全職員で取組を行っている。

## 2 平成28・29年度の結果

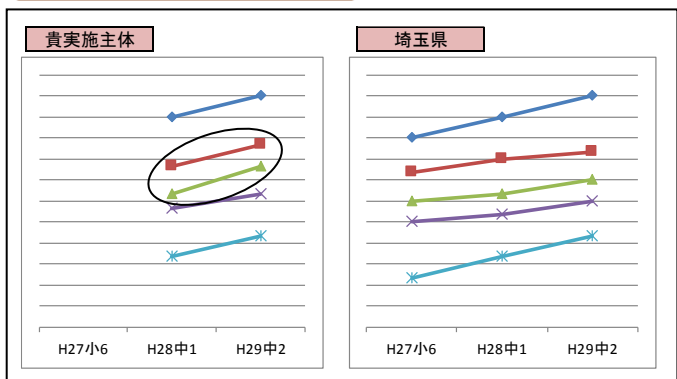
### 中学校1年生→中学校2年生の取組

#### (1) 「学力の伸び」から見られる特徴【数学】

##### 今までの学力の変化



##### 「学力の伸び」の状況



- 「学力の伸び」が県の伸びを上回っている。
- 中1から中2にかけて、中位層、上位層の伸びが大きい。

#### (2) 「学力の伸び」を引き出した効果的な取組

##### ア 「皆中スタンダード」による授業改善

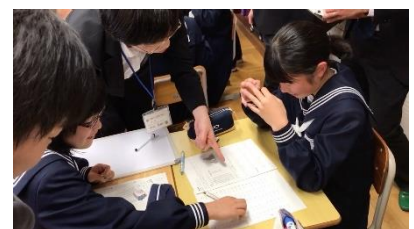
黒板提示（**目標**→**課題**→**本日のゴール**→**振り返り**）のプレートの活用を、共通行動事項として取り組んだ。全教員で取り組むことで、目的意識をもった取組ができるようになった。また、数学科では問題解決的な展開の授業を取り入れた。「①学ぶ意欲を引き出す問題設定、②解決の見通しを立たせる、③自力解決、④学び合い、⑤まとめ、⑥振り返り」という授業の流れを大切にし、1時間完結型の授業を目指した。



1時間完結型の授業の様子

##### イ 自ら考え判断する活動、伝え合う活動の充実

自分の考えや判断とその根拠について、問題の特徴を捉えてグループの話合いで説明できるようにする。一人一人の意見を反映させるとともに、多様な意見交換が行われるように意図的に3人グループとした。自分なりに考え、判断したことをグループ内で説明し伝え合わせることで、視点を共有し、自分の考えをより深めさせるようにした。このような学習活動を繰り返すことで、生徒の学習意欲高まったと考えられる。



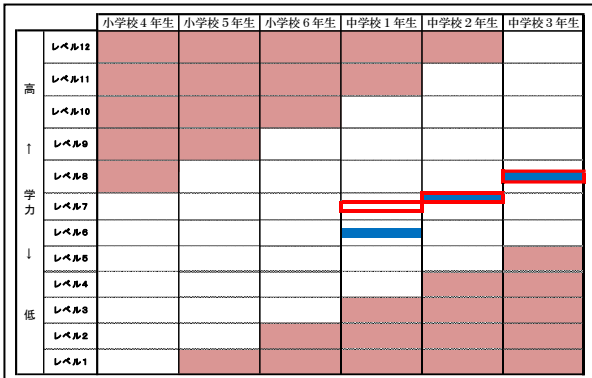
グループでの話合い活動



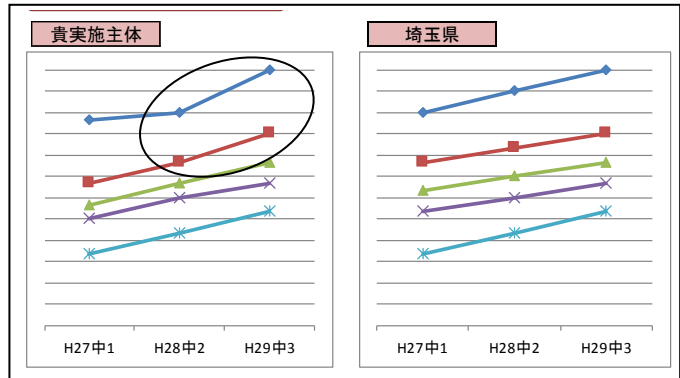
## 中学校2年生→中学校3年生の取組

### (1)「学力の伸び」から見られる特徴【数学】

#### 今までの学力の変化



#### 「学力の伸び」の状況



○ 中2から中3にかけて、上位層の伸びが大きい。

### (2)「学力の伸び」を引き出した効果的な取組

#### ア 個別支援プログラムによる個に応じた指導

埼玉県学力・学習状況調査の結果をもとに支援対象とすべき生徒をピックアップし、生徒ごとに担当職員を決め、eラーニングを活用した数学のプリント学習の支援をしている。各生徒に対して関わりの深い教員を担当にすることで信頼関係を深め、学習に対する意欲を高めている。適宜、声かけを行ったり、個別に課題を与え、翌朝、提出させたものを採点・返却したり、必要に応じて個別に指導を行ったりすることで、一人一人を確実に伸ばす支援ができる。

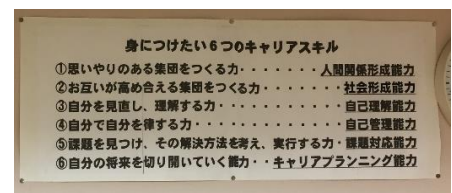
#### イ 手作りの「計算ノート」による基礎・基本の徹底

授業の最初の5分間で、手作りの「計算ノート」を使って、授業中の問題やワークシートから毎回5問程度を抜き出し、計算テストを行った。繰り返し計算練習を行うことで、計算する力が定着してきた。また、「計算ノート」をポートフォリオとして活用し、教師が定期的に回収・点検することで生徒のつまづきを把握し、基礎・基本の徹底を図ることができた。

## 学校全体での取組

#### ア 教科の授業をとおしたキャリア教育

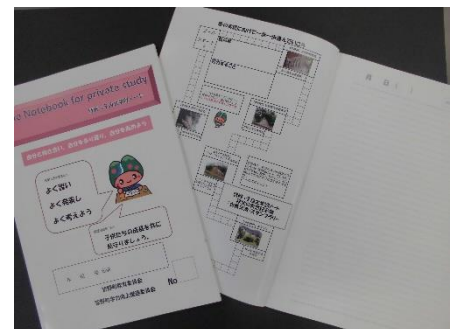
本校の特色として、キャリア教育の4つの基礎的・汎用的能力を細かく6つに分け、「6 skills」と命名し、キャリア教育を中心に据えた授業作りに取り組んでいる。各教室の前面には「6 skills」の表を分かりやすい言葉にして掲示している。各教科の年間指導計画にもキャリア教育の視点を位置づけ、「6 skills」を意識した授業づくりを行うことができた。



各教室に掲示されている「6 skills」

#### イ 「皆野っ子自主学习ノート」の活用

皆野町作成の「皆野っ子自主学习ノート」を活用して、家庭学習の充実を図っている。例えば、各クラスに1冊終るごとにシールを貼る掲示物を作り、生徒の努力の成果が視覚的に分かるようにグラフ化している。また、1人1日1ページ以上をルールとして、主体的な家庭学習を促進するとともに、生活記録ノートも兼ね、担任の負担を軽減しながら習慣化している。さらに、校内自主学习ノートコンテストを開催し、優秀者を表彰することによって、意欲を喚起させている。



皆野っ子自主学习ノート



# 蓮田市立蓮田南中学校の取組

## 1 本校の概要

本校は蓮田市の南部に位置し、本年度で開校 38 年目を迎える学校である。全校生徒数は 335 人、学級数 11 の中規模校である。

学校教育目標「豊かに たくましく 夢を求めて 切り拓く生徒」のもと、全教職員が一丸となって教育活動に取り組んでいる。本校では、数年前から継続して研究課題のテーマに「学び合い」を設定し、生徒の学力向上を図ってきた。本年度からは、「自ら学び、考え、表現できる生徒の育成 ～学び合い、考えを深め合う授業づくりを通して～」と設定し、授業研究を中心に研究を進めている。



## 2 平成 28・29 年度の結果

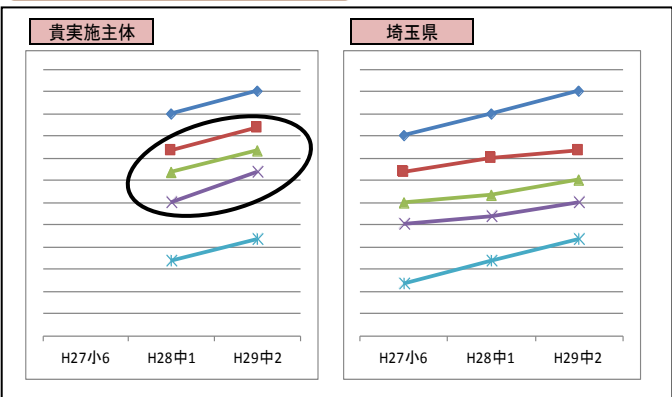
### 中学校 1 年生→中学校 2 年生の取組

#### (1) 「学力の伸び」から見られる特徴【数学】

##### 今までの学力の変化

	小学校 6 年生	中学校 1 年生	中学校 2 年生	中学校 3 年生
高				
レベル 12				
レベル 11				
レベル 10				
↑				
レベル 9				
レベル 8				
学力				
レベル 7				
レベル 6				
↓				
レベル 5				
レベル 4				
レベル 3				
レベル 2				
低				
レベル 1				

##### 「学力の伸び」の状況



- 「学力の伸び」が、県の伸びを上回っている。
- 下位層から上位層までそれぞれ伸びているが、特に下位層の「学力の伸び」が大きい。

#### (2) 伸びを引き出した効果的な取組

##### ア 授業の流れを明確化した授業改善

次のような授業の流れを基本としている。①授業の始めに必ず授業のねらい（学習課題）を示す。②解決に向けて自分で考えさせる。③グループで考えさせる。④最後にクラス全員で考えて結論を確認する。加えて、学び合いによるグループ学習を取り入れるなど、主体的・対話的で深い学びを意識した授業を行っている。



学び合いによるグループ学習

##### イ 基礎・基本の定着を図る学習プリントや小テストの活用

2年前から「蓮田市学力向上プロジェクト学習プリント」を全生徒に取り組ませている。前学期までの基礎・基本のまとめを長期休業中に行い、休業明けに確認テストを行うことで、前学期の復習を徹底している。

また、小テストを行う際には、ワンポイント・アドバイス（解説）を加えて返却するとともに、類似問題を配布して取り組ませることで、基礎・基本の確実な定着を図っている。

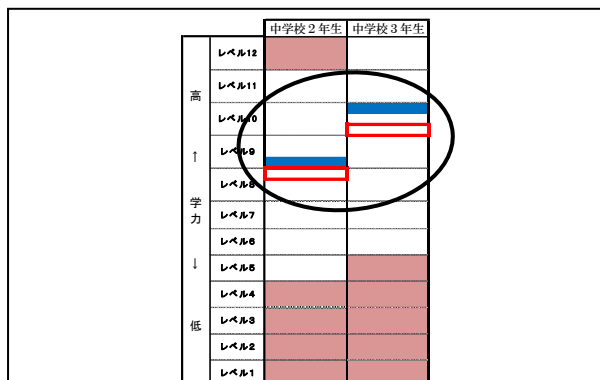


学習プリントの活用

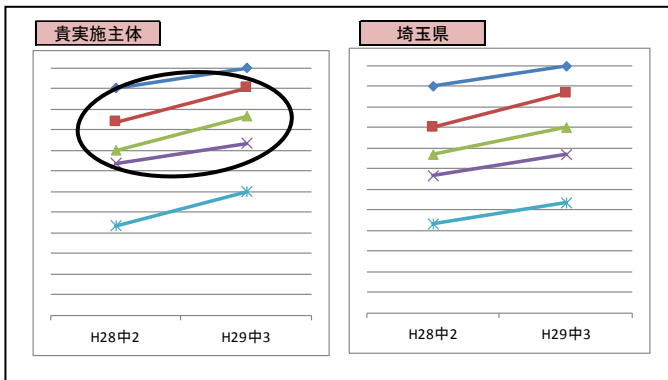
## 中学校2年生→中学校3年生の取組

### (1) 「学力の伸び」から見られる特徴【英語】

#### 今までの学力の変化



#### 「学力の伸び」の状況



- 「学力の伸び」が、県の伸びを上回っている。
- 全ての層において伸びが認められる。特に中位層の伸びが大きい。

### (2) 「学力の伸び」を引き出した効果的な取組

#### ア 埼玉県学力・学習状況調査の結果を活用した指導重点事項の明確化

埼玉県学力・学習状況調査の結果分析の際に、県から送付された「分析支援プログラム」のクロス集計機能を活用し、「家庭学習と学力」「国語と英語の読解力」「携帯電話の使用時間と学力」等、様々な相関関係を調べ具体的な学力向上プランを作成して指導を行っている。

#### イ 授業改善に向けた教科内研修の充実

教員が相互参観授業による意見交換を計画的に行うことで、生徒が主体的に学習できる指導法の改善に役立っている。また、ICTの活用事例や教材を共有し、全員が同じ質の指導ができるようにしている。一つの單元の中で、活動が中心の時間、基礎的・基本的事項習得の時間等、メリハリを持たせ、生徒が意欲的に学習できる指導計画への見直しを教科内研修等で行っている。さらに、家庭学習を習慣化させるために、指導計画に位置付けたり課題の準備を行ったりした。

#### ウ 学力向上ワークシート等のプリントの活用

東部教育事務所のホームページに掲載されている学力向上ワークシートを活用し、個別指導、補充的指導を放課後等で行っている。また、授業のポイントシート、確認プリント等、習熟の程度に応じたプリントを用意し、授業で活用している。これらは、家庭学習のツールとしても役立っている。さらに、県のホームページに掲載されている県学力・学習状況調査復習シートを全クラスで計画的に実施している。

## 学校全体での取組

### (1) 「学力向上プラン」の作成による授業改善

本校では3年前から、埼玉県学力・学習状況調査と全国学力・学習状況調査の結果を全職員で分析し、生徒の実態を明らかにした上で、「学力向上プラン」を作成することで、育成すべき力、生徒の学力を伸ばす学習方法等を明確にしている。この取組により、生徒の実態に応じた学力向上を目指す授業を全職員で行うことができている。

### (2) 授業規律の徹底

「時を守り、場を清め、礼を尽くす」のように、本校では、「当たり前のことを当たり前」という凡事徹底を、生徒と教職員の合言葉にしてきた。例えば、全ての生徒はチャイム前に着席していて、教師はチャイムと同時に授業をスタートしている。このような教育環境の整備に取り組むことで、生徒の学習規律が保たれ、生徒の学力向上の基礎となっている。